

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート

【平成27年度（下半期）】

1	農業分野	・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1
2	林業分野	・・・・・・・・・・・・・・・・P.15
3	水産業分野	・・・・・・・・・・・・・・・・P.22
4	商工業分野	・・・・・・・・・・・・・・・・P.28
5	観光分野	・・・・・・・・・・・・・・・・P.41

平成28年度「産業振興計画」関連予算額

農業分野	423,694千円
林業分野	255,174千円
水産業分野	25,617千円
商工業分野	1,738,412千円
観光分野	141,141千円
産業振興推進総合支援 事業費補助金	10,000千円
計	2,594,038千円

総額 約26億円

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート【平成27年度(下半期)】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
農業分野					
1 産地としての維持・強化					
1. 戦略品目の生産拡大					
(1)ぶしゆかんの産地づくり					
○生産量の拡大と産地化の推進	○ぶしゆかん産地化推進 H27.3月 ぶしゆかん産地化推進事業 ・大川筋、東富山の中山間地域の耕作放棄地や不作付地に約95aのモデル園を設置 新規定植(苗木代の補助) 450本 90a(ほ場8カ所) 防護柵設置(資材費の補助) 1,250m(ほ場8カ所) 4月～ ぶしゆかん現地検討会 ・市のモデル園で栽培管理指導 8月～ ぶしゆかん集出荷支援(人件費等への補助) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ※収穫体制として多機能事業所「アオ」との連携 8月 ぶしゆかん苗木業者の視察(香南市:清藤農園) ・苗確保と品質確認を目的に市、県農業振興センターで実施 9月 ぶしゆかん栽培基準検討会 ・四万十川のイメージに見合う環境に配慮した栽培方法(農業・化学肥料低減)を検討 3月 ぶしゆかん産地化推進事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・中山間地域の耕作放棄地や不作付地にモデル園を設置 新規定植(苗木代の補助) 1,069本 214a(ほ場19カ所) 防護柵設置(資材費の補助) 296m(ほ場2カ所) 3月 100年の古木を新規につぎ木(100本) 新規定植者への現地栽培講習会	四万十市 (農林課・商工課) 生産者 事業者	◆ぶしゆかん新植面積 H26:0.9ha→ H31:12ha ◆ぶしゆかん生産量 H26:13t→ H31:54t	【計画の変更】 ○「ぶしゆかん産地化推進計画の策定」、「生産者組合の設立」を取組内容に追加	○ぶしゆかん産地化・普及推進事業 6,178千円 ・新規定植(苗木への補助) 2,250本 450a ・有害鳥獣対策用防護柵(設置費への補助) 4,813m ・ぶしゆかん集出荷支援(人件費等への補助) ・四万十ぶしゆかんPR活動 ※人の集まる市内各飲食店、宿泊施設、公共施設等でポスター、のぼり旗によりPR ・ぶしゆかん青玉キャンペーン ※首都圏の高級スーパー、百貨店(延べ7箇所)で青玉配布、加工品の試食等を実施 ○生産者組織の設立 ・生産者が同じ価値観、目標を持ち将来にわたり確立したブランド力を維持・発展させるため、スケールメリットや栽培方式の統一、品質の向上等を図る。 ○栽培現地検討会 ・栽培管理指導 ○ぶしゆかん産地化推進計画の策定 ・目標栽培面積・生産量、青玉の流通(選果体制)、加工施設整備の実施計画 ※市・振興センター・生産者組織・加工業者等で協議 ○地理的表示保護制度(GI)登録に向けた調査研究 ※地域で育まれた農産物の伝統と品質基準を守る証(国が地域の特産品の「名称」を知的財産として保護) ○ぶしゆかん効能成分分析研究 ・化粧品への利用を視野に製薬会社(埼玉県)に依頼 ○四万十ぶしゆかんプロモーション事業 ・プロモーションビデオ・イメージソングの配信PR ○四万十ぶしゆかん(株)を主体に各種商談会、展示会、物産展等での販路開拓・販売促進活動を展開
◎認知度向上、販路開拓、ブランド化の取組み	○四万十ぶしゆかん(株)と連携した認知度向上、販路開拓、ブランド化の取組み H27.3月 四万十ぶしゆかん(株)設立 ・任意団体「チームぶしゆかん」を発展的解散、株式会社を設立 4月～ 四万十ぶしゆかん(株)を主体に各種商談会、展示会、物産展等において、販路開拓・販売促進活動を展開 6月 ぶしゆかん検討チームの開催 (実施主体:四万十ぶしゆかん(株)) ・年度実績・計画、販促活動、新商品開発、集荷体制等を協議 7月～ ぶしゆかんTV-CM展開(県内3社) (実施主体:四万十ぶしゆかん(株)) 四万十市産振総合補助金を活用 ・ぶしゆかん及び加工品の認知度向上の取組を推進 8月 ぶしゆかん青玉キャンペーン 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・首都圏の高級スーパー、百貨店(延べ7箇所)で青玉配布、加工品の試食等を実施 8月 ぶしゆかん効能成分分析研究の進捗報告 ・化粧品への利用を視野に製薬会社(埼玉県)に依頼 8月 協働の森フォーラムでのPR ・フォーラム参加の県外企業や関係者に青玉やパンフの配布、加工品の紹介 10月～ ぶしゆかんプロモーション事業 地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプⅡ)を活用 ・プロモーションビデオ・イメージソング制作、配信PR 11月 友好・交流都市物産展(枚方市) ・事業者、観光協会等が出展し、物産販売、観光PR等を推進 11月 四万十まるごと幅多フェア(岡山県津山市) ・幅多地域で一体となった物産販売、観光PR等を推進 3月 「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・PV、イメージソングの配信PR、加工品販売ほか 大手居酒屋チェーンとの商談 ・大手居酒屋チェーン「高知フェア」で加工品を取扱い				

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						(2)ゆずの産地化促進					
						○生産性の向上	○水田転換ゆず定例会の開催 4月～ 栽培管理指導、出荷検討(対象農家:10戸)	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 生産者 事業者	◆ゆず栽培面積 H26:42.5ha →H31:42.5haを維持 ◆ゆず生産量 H26:445t →H31:445tを維持		○水田転換ゆず定例会の開催 ・栽培指導、出荷検討
○隔年結果の低減や青果率、秀品率の向上	○剪定、誘引講習 5月・6月 奥鴨川、九樹の樹園地で実施(対象農家:10戸) ○ゆず青玉の目慣らし会 7月 青玉の目慣らし会 10月 黄玉の目慣らし会 ○ゆず果汁の品質向上 10月 ゆず果汁の品質向上研修会(馬路村) ○ゆず出荷販売検討会 2月 ゆずの腐敗事故防止対策	○剪定、誘引指導の実施 ○目慣らし会 ○ゆず出荷販売検討会 ○高知県ゆず振興対策協議会負担金 ・連携した取組みの推進 26千円									
◎「四万十ゆず」のブランド化推進	○ゆず加工品の開発・販売促進(実施主体:JA高知はた) (実施主体:JA高知はた) 4月～ 「四万十ゆず」の知名度アップに向け、加工品開発、販売促進活動を継続的(H23年度～)に推進 11月 友好・交流都市物産展(枚方市) ・事業者、観光協会等が出展し、物産販売、観光PR等を推進 11月 四万十まるごと幡多フェア(岡山県津山市) ・幡多地域で一体となった物産販売、観光PR等を推進 3月「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・PV、イメージソングの配信PR、加工品販売ほか 大手居酒屋チェーンとの商談 ・大手居酒屋チェーン「高知フェア」で加工品を取扱い ○「地域団体商標取得」に向けた取組みの推進 (実施主体:JA高知はた) 4月～ 「四万十ゆず」の名称で青果の出荷販売 (H29年度取得予定)	○ゆず加工品の販売促進 (事業主体:JA高知はた) ・「四万十ゆず」の知名度アップに向け、加工品の販売促進活動を継続的に推進 ○「四万十ゆず」の地域団体商標登録に向けた取組みの推進 (事業主体:JA高知はた) ・「四万十ゆず」の名称で青果の出荷販売 (H29年度取得予定)									
(3)栗の産地再生											
○栗園の再生	○中山間地域集出荷支援事業 (実施主体:JA高知はた) 6月～ 栗をはじめ園芸作物等の集出荷を円滑に推進	四万十市 (産業建設課) JA高知はた 生産者 事業者	◆栗栽培面積 H26:39.5ha →H31:47ha ◆栗生産量 H26:15.1t→ H31:60t		○中山間地域集出荷支援事業補助金 733千円 (事業主体:JA高知はた) ・栗、米、園芸作物の集出荷に対する支援						
○集出荷の支援	○栗活性化プロジェクト 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 10月～ ・新規定植(苗木代の補助) 1,500本 375a ・縮間伐作業(人件費等の補助) 200a ・枝葉処理用機械(ウッドチップパー導入補助)				○栗縮間伐等支援事業補助金 441千円 (事業主体:JA高知はた) ・栗園の縮間伐に対する支援						
◎「四万十栗」のブランド化の推進					○栗新規定植補助金 300千円 ・苗木代への支援(1,500本)						

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						(4)有望品目の産地強化					
						2. 生産性の高い栽培技術の導入					
◎地域に根づいた有望品目による産地の育成・強化	○集落営農・拠点ビジネス支援事業 (実施主体:山路営農組合) ・ハード整備:育苗ハウス、管理機(対象作物:水稲・ブロッコリー)	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 集落営農組織 生産者	◆有望品目の安定生産や新規品目が地域内で定着し、安定した農業経営につながっている		○農業生産物生産向上事業補助金 (事業主体:JA高知はた(ナス部会)) ・篤農家による新規生産者への技術指導 48千円						
○新規品目導入の支援	○産業振興補助事業 5月～ 篤農家(米ナス)による栽培指導の実施	○レンタルハウス整備事業 ・高度化促進分(1件) 14,871千円									
○新規作物導入試作支援事業 (実施主体:西土佐農業公社等) 4月～ 栽培実証及び販売促進等を支援 ①茎ブロッコリー試験栽培(雨よけ12/16a、露地5a) ②四万十春蓄試験栽培(露地6a) ③雨よけ米ナス試験栽培(前進化簡易ハウス3a) ④雨よけいごっそうナス試験栽培(前進化簡易ハウス1a) ⑤日本産マカの試験栽培(露地4a)	○園芸ハウス整備事業 ・既存ハウスの修繕(8件) 1,143千円										
○ハウスわさび試験栽培 1月 指導技術者の招致(現地調査、意見交換等) ・先進地調査(新潟県糸魚川市) ・地下水調査ボーリング:3カ所	○燃料タンク対策事業 ・南海トラフ地震による二次災害発生リスクを軽減するため、園芸ハウス加温燃料タンクを流出防止付きタンクへ置換え 2,167千円										
○野菜価格安定制度による経営支援	○中村野菜価格安定基金補給金 5月 H26分拠出金1,120,751円 (オクラ、シントウ、ナバナ)*1/3(市負担分)				○園芸産地リフレッシュ資金利子補給 3千円						
	○園芸作物価格安定基金評議会の開催 6月 園芸作物の生産コストに応じた価格補償を行い、農家の安定的な収入確保と農家負担金の偏りを調整 11月 振興作物(対象作物)の取り扱いの決定、現行の仕組みの見直し等				○新規作物導入等試作支援事業補助金 (事業主体:西土佐農業公社) 130千円						
					○野菜価格安定事業(基金協会負担金を含む) ・補給金 2,000千円 対象品目(中村地域):オクラ・シントウ・ナバナ ・基金協会負担金 1,000千円 2,000千円						
					○園芸作物価格安定事業(特別会計) ・補給金 15,000千円 ・評議会等運営 102千円 15,102千円						
2. 生産性の高い栽培技術の導入											
(1)学び教えあえる場づくり											
◎学び教えあう場づくり	○地域内農家訪問研修(延べ6回) 4月～ 月1回ベース 視察先:米ナス、ピーマン等実践農家	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 生産者	◆講座等を通じて、営農に不可欠な栽培技術や経営感覚が習得され、持続的な農業経営が実践されている		○農業基礎講座 ・県農業振興センターを主体とし、農業研修生を対象に基礎講座(就農計画、制度資金、土づくり、農薬の適正使用経営管理等)を実施						
	○産業振興補助事業 5月～ 篤農家(米ナス部会)による栽培指導の実施				◆新規就農者等と篤農家との交流が促進され、情報収集や就農後の相談体制等ネットワークが構築されている。	○JA選果場における目慣らし会の実施 ・出荷前、出荷途中目慣らし会 (対象品目:ショウガ、ブロッコリー、オクラ)					
	○農業基礎講座 9月～ 4回開催 ・県農業振興センターを主体とし、農業研修生を対象に基礎講座(就農計画、制度資金、土づくり、農薬の適正使用経営管理等)を実施				○地域内農家訪問研修 ・四万十農園あぐりっこ研修生の農家訪問研修						
	○JA選果場における目慣らし会の実施 随時実施 出荷前、出荷途中目慣らし会 (対象品目:ショウガ、ブロッコリー、オクラ)				○地域内農家による巡回指導 ・農家による四万十農園あぐりっこ研修生への訪問指導						
	○地域内農家による巡回指導(四万十農園) 10月				【再掲】 ○農業生産物生産向上事業補助金 (事業主体:JA高知はた(ナス部会)) ・篤農家による新規生産者への技術指導 【48千円】						

分野		平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主要内容						
農業分野						
(2)環境保全型農業の推進						
	○環境保全型農業の普及・啓発	<p>○有機農業等総合支援事業 4月～ 化学肥料に頼らない土作りのため、市内の家畜ふん堆肥や有機物堆肥の施用にかかる経費やその散布を支援し、循環型農業を推進 (堆肥施用:7件 186a)</p> <p>○環境保全型農業直接支援対策事業 10月～ 化学肥料、農薬を使用しない取組み又は5割以上低減し、環境保全に効果の高い営農活動を支援 ・対象農家:8戸、取組面積:1,883a (※水稲・果樹・野菜 いずれも有機農業) ・カバークopp:1組織760a(水稲) (レンゲ等地力増進作物)</p> <p>○環境保全型農業推進事業 10月～ 農薬使用を低減するため天敵製剤、複合交信錯乱剤の導入に対する支援 ・園芸部会:10戸 266a(ミョウガ、オオバ、キュウリ) ・イチゴ部会:13戸 168a</p>	四万十市 (農林課、産業建設課) 生産者	<p>◆四万十川のブランドイメージにマッチした環境保全型農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている</p> <p>◆環境保全型農業直接支援隊対策事業参加経営面積 H26:21ha →H31:31ha</p> <p>◆環境保全型農業推進事業実施経営体数 H26:11戸→H31:15戸</p>		<p>○有機農業等総合支援事業 700千円 ・化学肥料に頼らない土作りのため、市内の家畜ふん堆肥や有機物堆肥の施用にかかる経費やその散布を支援</p> <p>○環境保全型農業直接支援対策事業 2,437千円 ・化学肥料、農薬を使用しない取組み又は5割以上低減し、環境保全に効果の高い営農活動を支援 取組面積:2,968a</p> <p>○環境保全型農業推進事業補助金 407千円 ・環境保全型農業を実践する農業者の育成、技術・機械導入経費への支援 園芸部(13戸):316a イチゴ部(13戸):168a</p> <p>【再掲】 ○農産物のブランド化事業 【2,248千円】 ・「四万十農法米」の推進 ※県農業基準の5割以上低減及び化学肥料の低減による栽培米</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生産面積の拡大・・・10戸(3ha) ランドデザイン作成 (ロゴ、キャッチコピー、ネーミング、パッケージデザイン) 販売促進活動 (学校、保育所、市内飲食店への売込み、食品取扱業者へのPR、友好都市物産展での販売促進)</p> </div>
(3)次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進						
	○次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進	<p>○環境制御技術導入加速化事業 8月～ ・ハウス内の環境(温度、湿度、炭酸ガス濃度等)をデータで一元管理 ・炭酸ガス施用装置導入を支援(光合成を促進) ・対象農家:8戸、取組面積:約111a(ピーマン、トマト)</p>	四万十市 (農林課、産業建設課) 生産者	<p>◆環境制御技術を導入する生産者が増加している</p> <p>◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H31:1社</p>	<p>【計画の変更】 ○「次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進」をアクションプランに追加し、 ・環境制御技術導入加速化事業の普及を推進 ・次世代施設園芸への企業参入(企業誘致)を推進 を取組内容に記載</p>	<p>○環境制御技術導入加速化事業 674千円 ・炭酸ガス施用装置等導入への支援 ※ハウス内の環境データを一元管理 対象農家6戸、A=139a(ピーマン、トマト、キュウリ等)</p> <p>○県と連携した次世代施設園芸への企業参入(企業誘致)への取組み -</p>
3. 集落営農の推進						
(1)集落営農の組織化、法人化の支援						
	○組織化に向けた取組みの推進	<p>○組織化への誘導・支援 4月～ 地区座談会(未組織地区) ・地区の現状や将来の課題等、住民が話し合い今後の方向性等を検討 ・富山中央地区(大用・住次郎・大西ノ川・小西ノ川)で組織設立</p> <p>4月～ 集落営農組織化への支援 ・方の川地区と西ヶ方営農組合(西ヶ方地区の既存組織)との合同組織化への指導・助言 ・西土佐地域農業座談会(全域) 農業に関する情報提供・組織化への提案等</p> <p>7月・2月 西土佐地域集落営農研究会の開催 ・未組織地区を対象に「中山間地域等直接支払制度の集落協定」の講演及び情報提供を実施</p>	四万十市 (農林課、産業建設課) 集落営農組織	<p>◆集落営農組織数 H26:20組織 →H31:25組織</p> <p>◆農業経営を行う法人数 H26:2法人 →H31:9法人</p>		<p>○集落営農加速化支援事業(ソフト事業分) 464千円 ・先進地視察(組織化への誘導)</p> <p>○組織化への誘導・支援 - ・集落営農研究会の開催(年2回程度) ・地区座談会 ※地区の現状や将来の課題等、住民が話し合い今後の方向性等を検討</p>

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						(2)集出荷支援体制の充実					
						★集出荷拠点施設の設定、整備					
○集出荷の支援	<p>○中山間地域生活支援総合事業 4月～ 農産物の集出荷や生活支援に係る人件費、燃料費等への支援</p> <p>○農産物出荷代行 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 4月～ 農産物の出荷代行を地域の見守り活動と組合わせて実施</p> <p>○中山間農業複合経営拠点整備の検討 7月～ 農村集落の維持・活性化を図る取り組み(農産物生産、集出荷、直販所、加工所等)を行う拠点の整備について県、市で検討</p> <p>○ぶしゅかん産地化推進 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 8月～ ぶしゅかん集出荷支援(人件費等への補助) ※収穫体制として多機能事業所「アオ」との連携</p>	<p>四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 大川筋振興組合 東富山を守る会</p>	<p>◆生産・出荷支援 システム取組件数 H26:5件 →H31:5件(維持)</p>		<p>○中山間地域生活支援総合事業 (事業主体:東富山を守る会) ・農産物の集出荷や生活支援(買い物代行)への支援</p> <p>【再掲】 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 【614千円】 ・ぶしゅかん集出荷支援(人件費等への補助)</p> <p>【再掲】 ○中山間地域集出荷支援事業補助金 【733千円】 (事業主体:JA高知はた) ・粟、米、園芸作物の集出荷に対する支援</p> <p>【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【17,374千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・地産地消推進 農産物栽培計画指導、ミニレンタルハウス補助、集出荷支援、給食施設等への供給</p>	1,896千円					
2 地元農産物の利用・販売促進											
1. 地元農産物の利用促進											
(1)地元消費拡大に向けた取組みの強化											
<p>◎公共施設での利用促進</p> <p>★連携ネットワーク形成</p> <p>★地産地消認証店制度</p> <p>◎市内量販店等を拠点とした販路拡大</p> <p>★地元消費拡大フェアの開催</p>	<p>○環境にやさしい農業のための研究会 4月～ 定例会(毎月)・・・学校給食等への食材供給検討 6月 食育の推進(東山小学校:野菜勉強会) 9月 市給食担当者との意見交換会 11月 食育の推進(八束小学校:農業収穫体験) (東山小学校:農業収穫体験・体験発表・給食交流会)</p> <p>○農産物の安定供給のための栽培計画会、栽培研修会の実施 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 8月・12月・2月 作付作物等の協議</p> <p>○西土佐地域地産地消推進協議会 5月・11月・2月 学校給食棟への食材供給検討</p> <p>○集落営農組織連絡協議会での要望調査 3月 組織からの要望調査を実施し、公共施設や市内飲食店とのマッチング設定等を検討</p> <p>○フェア等の開催 4月 西土佐ふるさと市「春の感謝祭」開催 ・たけのこほり体験、加工品販売など 7月～ ぶしゅかんTV-CM展開(県内3社) (実施主体:四万十ぶしゅかん(株)) 四万十市産振総合補助金を活用 ・ぶしゅかん及び加工品の認知度向上の取組を推進 8月 西土佐ふるさと市「夏の感謝祭」開催 ・いごっそうなすの試食等地域産品をPR・販売 11月 「西土佐産業祭」・「うまいもの商店街」開催 ・農林水産物の品評会・即売会、加工品販売 12月 西土佐ふるさと市「冬の感謝祭」の開催 ・米の消費拡大(杵つき餅)など 3月 「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・農林水産物の即売会、加工品販売</p>	<p>四万十市 (農林課、産業建設課 商工課) 環境にやさしい農業 のための研究会 西土佐地域地産地消 推進協議会 集落営農組織</p>	<p>◆学校給食への市内農産物(野菜類)の供給率 H26:64.8%→H31:— % ※目標値は、中学校給食の開始、実施状況により後年度において設定</p> <p>◆産業祭来場者数 H25:2,000人 → H31:20,000人</p>		<p>○環境にやさしい農業のための研究会 ・学校給食への農産物供給</p> <p>【再掲】 ○農産物のブランド化事業 【2,248千円】 ・「四万十農法米」の推進 ※県農業基準の5割以上低減及び化学肥料の低減による栽培米</p> <p>販売促進活動 (学校、保育所、市内飲食店への売込み、食品取扱業者)</p> <p>○集落営農組織での学校、保育所給食への食材供給を検討</p> <p>【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【17,374千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・地産地消推進 農産物栽培計画指導、ミニレンタルハウス補助、集出荷支援、給食施設等への供給</p> <p>【再掲】 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 【391千円】 ・四万十ぶしゅかんPR活動 ※人の集まる市内各飲食店、宿泊施設、公共施設等でポスター、のぼり旗によりPR</p>	—					

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						(2)直販機能の強化					
						○直販所機能の強化					
<p>○農林水産物直販所「安心係」養成講習会開催 7月 情報発信、農産物管理、農業適正使用、食品表示、衛生管理講習</p> <p>○道の駅地域産品開発等特別対策事業 9月～ 加工食品等の開発支援及び農産物出荷体制に向けた施設整備等の支援(ミニレンタルハウスの整備:2棟)</p> <p>★(仮称)西土佐道の駅の整備</p> <p>○道の駅「よって西土佐」施設整備 8月 建築工事着工 3月 完成(プレオープン)</p> <p>○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体:株西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用</p> <p>・「道の駅戦略会議」の設立 構成:市・株西土佐ふるさと市・あゆ市場・ ストローベイル山間屋・株サコダデザインなど</p> <p>5月～ 道の駅開業までの課題、開業後の運営等について 週2回のペースで協議を継続</p> <p>10月～ 開業PR活動、県内外への積極的な営業活動の強化 WEBでの発信、クラウドファンディングの活用等による道の駅「よって西土佐」のファンづくりを実施</p> <p>・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等</p> <p>○+-41℃物産交流連携・調整事業 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>9月 ・「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に出展 ・四万十市の商品をPR及び、道の駅「あさひかわ」との連携に向けた協議・調整。</p> <p>○道の駅地域産品開発等特別対策事業 10月～ 道の駅への出品する加工事業者の加工品開発等への支援</p> <p>○(株)西土佐ふるさと市加工部会の立ち上げ 10月～ 加工技術、生産性、衛生管理などの向上にむけた検討</p>	<p>四万十市 (農林課、産業建設課) 直販所</p>	<p>◆農林水産物等直販所 販売額 H26:11億5,600万円 → H31:13億円</p> <p>◆道の駅「よって西土佐」 入込客数 H31:13万人</p>	<p>【計画の変更】 ○アクションプラン名を「道の駅「よって西土佐」の整備・機能強化へ変更し、道の駅「よって西土佐」を拠点に運営主体「株西土佐ふるさと市」の地域商社としての機能を強化に取組内容を変更</p>	<p>○農林水産物直販所「安心係」養成講習会への参加 ・情報発信、農産物管理、農業適正使用、食品表示、衛生管理講習</p> <p>【再掲】 ○地域おこし協力隊事業 ・道の駅配置:2名 【7,845千円】</p> <p>【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「株西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用</p> <p>・地産地消推進 農産物栽培計画指導、ミニレンタルハウス補助、集出荷支援、給食施設等への供給</p> <p>・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング</p> <p>・食品加工開発等支援事業費補助金 集落やグループ、個人事業者が行う小さなビジネスを支援</p> <p>・百貨店バイヤー等招致研修会</p> <p>・地域住民の居場所づくり(図書に親しむフェア開催ほか)</p> <p>・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流</p> <p>・サテライトショップ開設(松山市)</p> <p>・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか</p> <p>・クラウドファンディングを活用したファンづくり(販路開拓)</p> <p>・水産物販売促進事業補助金 (事業主体:四万十川西部漁協「あゆ市場」)</p> <p>・地のモノを使ったスイーツ販売促進事業補助金 (事業主体:四万十の山間屋「山間屋」)</p> <p>・広域観光拠点機能 デジタルサイネージ導入 おもてなし意識の醸成とインバウンド対応のスキルアップ研修</p>							

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
農業分野	2. ブランド化の確立と販売促進	(1)ブランド化の推進	◎戦略品目のブランド化	○「地域団体商標取得」に向けた取組みの推進 (実施主体:JA高知はた) 4月～「四万十ゆず」の名称で青果の出荷販売 (H29年度取得予定) ○四万十ぶしゅかん(株)と連携した認知度向上、販路開拓、 ブランド化の取組み 7月～ ぶしゅかんTV-CM展開(県内3社) (実施主体:四万十ぶしゅかん(株)) ■四万十市産振総合補助金を活用 ・ぶしゅかん及び加工品の認知度向上の取組を推進 8月 ぶしゅかん青玉キャンペーン ■地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・首都圏の高級スーパー、百貨店(延べ7箇所)で 青玉配布、加工品の試食等を実施 10月～ ぶしゅかんプロモーション事業 ■地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプⅡ)を活用 ・プロモーションビデオ・イメージソング制作、配信PR	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 生産者 事業者	◆四万十農法米栽培面積 H31:20ha ◆四万十農法米生産量 H31:88.4t	【再掲】 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 ・ぶしゅかん青玉キャンペーン ※首都圏の高級スーパー、百貨店(延べ7箇所)で青玉 配布、加工品の試食等を実施 ○四万十ぶしゅかんプロモーション事業 ・プロモーションビデオ・イメージソングの配信PR ○「四万十ゆず」の地域団体商標登録に向けた取組みの推進 (事業主体:JA高知はた) ・「四万十ゆず」の名称で青果の出荷販売 (H29年度取得予定) ○農産物のブランド化事業 ・「四万十農法米」の推進 ※県農業基準の5割以上低減及び化学肥料の低減に よる栽培米 生産面積の拡大・・・10戸(3ha) グランドデザイン作成 (ロゴ、キャッチコピー、ネーミング、パッケージデザイン) 販売促進活動 (学校、保育所、市内飲食店への売込み、食品取扱業者)	【933千円】 — — 2,248千円	
			★40010日プロジェクト	○農産物ブランド化事業 ■地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・四万十農法米の取組:農産物のブランド化を確立し販路拡大 や有利販売につなげ生産者の経営安定を図る取組を推進 H26.12月 栽培基準の設定 H27.1月 水稲生産部への構想説明 H27産の生産者確定・・・4戸(1.2ha) 4月 早稲浅水代掻き講習会 5月 中稲浅水代掻き講習会 8月 早稲米販売開始(新聞4社に掲載) 9月 水稲生産部米ブランド取組み視察(和歌山県) 中稲米販売開始 10月～ プロジェクトコンサルティング 市内飲食店等への営業 11月 友好都市物産店での販売(枚方市) 12月 次年度栽培面積調整 1月 次年度生産者確定、生協への営業 2月 市内出生者(H28生まれ)への祝い品贈呈の 仕組み確立 ※地元消費者へプロジェクトPR 3月 しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)出展					
			(2)地元農畜産物を使った商品の開発・販売	○地元農畜産物を使った商品の開発	○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・商品開発等の課題、研修ニーズ等の把握 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進 ・売れる商品づくり、POP講座等の開催(3回) 11月～2月 人材育成研修事業 ・商品づくり(衛生管理やマーケティング等)における 基礎的知識の習得 ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体:榎西土佐ふるさと市) ■地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ 商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品 の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○道の駅地域産品開発等特別対策事業 9月～ 加工食品等の開発支援及び農産物出荷体制に向けた 施設整備等の支援(ミニレンタルハウスの整備:2棟) ○(株)西土佐ふるさと市加工部会の立ち上げ 10月～ 加工技術、生産性、衛生管理などの向上にむけた検討 ○地元素材を活用した新商品開発・販促事業 (実施主体:WANLIFE) ■四万十市産振総合補助金を活用 ・地元素材を活用したペットフードの商品開発 (高知工科大学と連携)	四万十市 (農林課、産業建設課 商工課) 生産者 事業者	◆一次産品等を活かした 新商品の開発 H31:15アイテム ※農畜産物加工品以外 を含む	【再掲:商工業分野と共通】 ○地域の頑張る人づくり事業補助金 (事業主体:四万十市地域商品研究会) ・市内事業者が連携、参画し、商品開発、マーケティング、 ブランディング、クレーム対応等のスキルアップ研修を実施 (専門アドバイザーの招致、年間6講座予定) 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「榎西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) ■地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による 商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 【再掲:観光分野と共通】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 ■地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文 化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発 (アドバイザー招致等)	【1,402千円】 【6,470千円】 【400千円】

分野	戦略の柱	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	(2)地元農畜産物を使った商品の開発・販売					
	◎意欲的な生産者への支援	○レンタル畜産施設等整備事業 (事業実施主体:JA高知はた) ・四万十市の安定供給体制整備と商品開発、販売等6次化に取り組む生産者を支援 4月～事業実施に向けた協議、検討(市、JA高知はた、生産者) 11月～レンタル畜舎施設整備			【計画の変更】 ○「広域連携による外商活動」をアクションプランに追加し、 ・連携組織体制の構築と広域連携による外商活動の推進 を取組内容に記載	○農産物輸出促進事業補助金 (事業主体:JA高知はた) ・おおきみ(苺)輸出用化粧箱リニューアルへの支援 265千円
	★産業間連携による外商活動	○関東幡多四万十会(東京) 5月 地元産品及び観光のPR、販売促進 ○+-41℃物産交流連携・調整事業 (事業主体:(株)西土佐ふるさと市) 【四万十市産振総合補助金を活用】 9月 「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に出展 四万十市の産品をPR及び、道の駅「あさひかわ」との連携に向けた協議・調整。 ○フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市) 10月 7事業者が出展し、物産販売等 ○友好・交流都市物産展(枚方市) 11月 事業者、観光協会等が出展し、物産販売、観光PR等を推進 ○四万十まるごと幡多フェア(岡山県津山市) 11月 幡多地域で一体となった物産販売、観光PR等を推進			【再掲:商工業分野と共通】 ○四万十フェア開催 ・首都圏、中国地方で地域産品のPR、販売フェアを実施 【1,394千円】 【再掲:商工業分野と共通】 ○地産外商促進 【499千円】 ・春・冬の味覚祭(高知大丸)、フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市)への出展ほか 【再掲:商工業分野と共通】 ○枚方市・四万十市友好都市交流物産展 【66千円】 ・枚方物産展への出展 【再掲:商工業分野と共通】 ○四万十ふるさと応援団事業 【146千円】 ・関東幡多四万十会・四万十ふるさと応援団交流会での地域産品PR、販売 【再掲:商工業分野と共通】 ○幡多広域地産外商推進協議会負担金 【50千円】 ・幡多6市町村で協議会を新設し、広域連携による外商活動を ---	
	○商談会等販路開拓・拡大の支援	○特産品等販売促進事業 【地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用】 8月 展示商談会(「外食ビジネスウイーク(東京)」に、四万十市として単独出展し、販路開拓・拡大 2月 展示商談会(「スーパーマーケットトレードショー(東京)」に県地産外商公社と連携し(県ブース)、四万十市として出展、市内加工品の販路開拓・拡大 ○四万十市地域商品販路拡大事業 (実施主体:四万十市地域商品研究会) 【四万十市産振総合補助金を活用】 9月 展示商談会(グルメ&ダイニングショー(東京))に出展し、市内加工品の販路開拓・拡大 ○首都圏スーパー等との商談機会の創出 10月・11月 県地産地消・外商課及び高知県食品外販協同組合との連携【紀ノ国屋(東京)、京北(千葉)】 ○地元素材を活用した新商品開発・販促事業 (実施主体:WANLIFE) 【四万十市産振総合補助金を活用】 11月 ・展示商談会:「Pet博(横浜)」へ出展し、販路開拓・拡大 ・ホームページリニューアル、情報誌掲載等			【再掲:商工業分野と共通】 ○特産品等販売促進事業 【3,399千円】 ・首都圏での大規模商談会への出展 スーパーマーケットトレードショー 東京国際ナショナルギフトショー 【再掲:商工業分野と共通】 ○産地視察型商談会の開催(県との連携事業) - 【再掲:商工業分野と共通】 ○県内量販店でのテストマーケティング(県との連携事業) - 【再掲:商工業分野と共通】 ○大手居酒屋チェーンや県内外の飲食店への販促 - ・地元農産物を活用した加工品等を紹介し取引を進める 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【13,062千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 【地方創生加速化交付金を活用】 ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流 ・サテライトショップ開設(松山市) ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・地のモノを使ったスイーツ販売促進事業補助金 (事業主体:四万十の山間屋「山間屋」)	

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						3. 有機農業の推進					
						(1) 有機農産物の販路開拓・拡大					
◎有機農産物の流通促進	○環境にやさしい農業のための研究会 5月 土佐一条公家行列藤祭り:四万十こだわり物産市への参加PR 7月 有機野菜供給先(高知市内ホテル)・オーガニックマーケット視察 11月 枚方市・四万十市友好都市交流物産展 ・野菜、加工品の販売、PR 3月 「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」 ・野菜、加工品の販売、PR	四万十市 (農林課、産業建設課) 環境にやさしい農業のための研究会 西土佐地域地産地消推進協議会 集落営農組織	◆四万十川のブランドイメージにマッチした有機農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている ◆学校給食への市内農産物(野菜類)の供給率 H26:64.8%→H31:-% ※目標値は、中学校給食の開始、実施状況により後年度において設定		○環境にやさしい農業のための研究会の支援 ・公家行列(物産市)、枚方市・四万十市都市交流物産展等へ出展PR ・オーガニックマーケット視察 ・「環境にやさしい農業推進交流大会」開催、PR ほか ○環境にやさしい農業のための研究会 ・学校給食への農産物供給	-					
【再掲】 ◎公共施設での利用促進	○環境にやさしい農業のための研究会 4月～ 定例会(毎月)・・・学校給食等への食材供給検討 6月 食育の推進(東山小学校:野菜勉強会) 9月 市給食担当者との意見交換会 11月 食育の推進(八東小学校:農業収穫体験) (東山小学校:農業収穫体験・体験発表 ・給食交流会) ○農産物の安定供給のための栽培計画会、栽培研修会の実施 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 8月・12月・2月 作付作物等の協議 ○西土佐地域地産地消推進協議会 5月・11月・2月 学校給食等への食材供給検討										
(2) 有機農業の普及・啓発活動の推進											
○有機農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業 4月～ ・化学肥料に頼らない土作りのため、市内の家畜ふん堆肥や有機物堆肥の施用にかかる経費やその散布を支援し、循環型農業を推進(堆肥施用:7件 186a) ○環境にやさしい農業のための研究会との連携 5月・8月 ・事業推進等における関係機関との検討、協議(理事会、総会等) 構成:生産者等、市、JA高知はた、 県農業振興センター、県西部家畜保健衛生所 2月 ・生産量の確保、新規品目の拡大等出荷検討会の開催	四万十市 (農林課、産業建設課) 環境にやさしい農業のための研究会 生産者	◆四万十川のブランドイメージにマッチした有機農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている ◆有機農業等総合支援事業実施面積 H26:11.5ha →H31:12ha		【再掲】 ○有機農業等総合支援事業 【700千円】 ・化学肥料に頼らない土作りのため、市内の家畜ふん堆肥や有機物堆肥の施用にかかる経費やその散布を支援 ○環境にやさしい農業のための研究会との連携	-					
3 担い手の確保・育成											
1. 新規就農者の確保・育成											
(1) 新規就農者の研修支援											
○新規就農者の確保・育成	○新規就農研修支援事業 ・「四万十農園あぐりっこ」 4月～ 研修者3名(うち2名が8月から施設園芸で就農開始) 7月 新規研修生2名採用 9月 新規研修生1名採用 10月～ 事業PR(市フェイスブック等) 事業パンフレット見直し ・「西土佐農業公社」 4月～ 研修生1名	四万十市 (農林課、産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知はた	◆新規就農者数 H31:3人/年		○新規就農研修支援事業 12,600千円 ・研修生手当、受入農家等研修補助金 ○四万十農園あぐりっこ運営費 8,723千円 ○営農指導拠点施設(西土佐農業公社)運営費 14,830千円 ○新規就農者に対する農地の斡旋	-					
◎新規就農者に対する農地提供促進	○農地の斡旋(随時) ・研修修了者1人に農地(空きハウス)を紹介し、就農(口鴨川)										

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						(2)新規就農支援体制の拡充					
						○相談支援体制の充実	○就農相談・経営安定化支援 4月～ ・就農支援チーム(市、JA、県):11件 6月 資金計画(農業用機械導入)支援協議 9月 青年就農給付金(開始型)営農計画審査(3件) 同現地調査(11件) 9月・1月 青年就農給付金開始型受給者のサポート ・受給者4名へのヒアリングおよび圃場確認 3月 青年就農給付金(開始型)現地調査(14件)	四万十市 (農林課、産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知はた	◆新規就農者数 H31:3人/年		○就農相談会の開催等 991千円 ・新・農業人フェア ・高知アグリスクール ・移住相談会 ※東京、大阪各3回
○経営安定への支援				○就農相談・経営安定化支援 - ・就農支援チームによるトータルサポート ※営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等							
◎就農開始時の支援	○就農開始時の支援 4月・5月 レンタルハウス整備事業地域協議会 ・就農計画作成支援 5月～ JA高知はた西土佐支所米ナス部会による講習会 ・18回実施:農家延べ69人参加 6月 青年等就農計画審査会(認定新規就農者2名認定) ・認定新規就農者2名認定 10月～12月 就農支援 1月～3月 レンタルハウス資金計画作成				○青年就農給付金 25,500千円 ・経営が不安定な就農初期段階の青年就農者への経営支援						
					○レンタルハウス整備事業 41,499千円 ・新規就農分(2件)						
(3)移住促進による新規就農支援											
◎移住就農者の誘致活動の強化	○新・農業人フェアへの出展 6月 大阪:面談件数12件 7月 東京:面談件数19件 10月 大阪:面談件数10件 12月 東京:面談件数6件 1月 大阪:面談件数8件 2月 東京:面談件数8件	四万十市 (農林課、産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知はた	◆新規就農者数 H31:3人/年 ※移住夫婦研修者含む		【再掲】 ○就農相談会の開催等 【991千円】 ・新・農業人フェア ・高知アグリスクール ・移住相談会 ※東京、大阪各3回						
◎Iターン(夫婦就農)者に対する支援強化	○夫婦就農を目指す研修生の受入検討 10月～ 検討										
2. 認定農業者等の育成											
(1)認定農業者制度の周知強化											
○今後育成すべき農業者の把握、誘導	○人・農地プランの中心経営体への誘導(随時) 4月 認定農業者へ誘導 1人 ・レンタル畜舎事業 6月 認定農業者へ誘導 3人 (経営所得安定対策のナラシ対策) ・米・畑作物の収入減少緩和対策(ナラシ対策) 10月～12月 西土佐農業座談会の開催(13か所) ・人・農地プラン周知 1月 JA水稻部会でナラシ対策予定者を把握し誘導	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた	◆認定農業者数 H25:127人 →H31:150人		○人・農地問題解決加速化支援事業 166千円 ・人・農地プラン地区座談会等で中心経営体の経営状況を把握し誘導						
○認定農業者制度の周知徹底	○新規就農者への制度説明(随時) 12月 農業関連事業実施希望者への制度説明 1月 市ホームページに掲載PR ・制度、申請様式等の広報活動				○認定新規就農者の5年経過した者を誘導 - ○経営所得安定対策受付時やJA水稻生産部でナラシ対策希望者を誘導 - ○新規就農者への制度説明(随時) -						
(2)認定農業者等のフォローアップの強化											
○認定農業者等のフォローアップの強化	○認定農業者等のフォローアップ 8月 ・担い手関連事業の情報提供 ・再認定者の農業経営改善計画作成支援:3人 (認定期間5ヶ年を経た者の再認定) 11月 ・認定農業者連絡協議会の開催 ・全国担い手サミット参加(宮崎県) 1月 ・税理士による認定農業者対象の納税相談会の開催 2月 ・県担い手サミット参加(高知市) 事例発表、先進地視察 3月 ・再認定者の農業経営改善計画作成支援 18人 (認定期間5ヶ年を経た者の再認定)	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた 認定農業者連絡協議会	◆認定農業者数 H25:127人 →H31:150人		○担い手育成・確保対策事業 247千円 ・認定農業者のフォローアップ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">担い手関連事業の情報提供 再認定者の農業経営改善計画作成支援 認定農業者連絡協議会の開催 全国担い手サミットへの参加(岐阜県) 税理士による認定農業者対象の納税相談会の開催 県担い手サミット参加 再認定者の農業経営改善計画作成支援</div> ○農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)利子補給 29千円						

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						【再掲】 3. 集落営農の推進					
						(1) 集落営農の組織化、法人化の支援					
○組織化に向けた取り組みの推進	<p>○組織化への誘導・支援</p> <p>4月～ 地区座談会(未組織地区) ・地区の現状や将来の課題等、住民が話し合い今後の方向性等を検討</p> <p>・富山中央地区(大用・住次郎・大西ノ川・小西ノ川)で組織設立</p> <p>4月～ 集落営農組織化への支援 ・方の川地区と西ヶ方営農組合(西ヶ方地区の既存組織)との合同組織化への指導・助言</p> <p>・西土佐地域農業座談会(全域) 農業に関する情報提供・組織化への提案等</p> <p>7月・2月 西土佐地域集落営農研究会の開催 ・未組織地区を対象に「中山間地域等直接支払制度の集落協定」の講演及び情報提供を実施</p>	四万十市 (農林課、産業建設課) 集落営農組織	◆集落営農組織数 H26:20組織 →H31:25組織								
○フォローアップ体制の充実・強化	<p>○既存組織へのフォローアップ</p> <p>4月～9月 組織別座談会(集落営農組織:中村地域) ・事業導入や法人化に向けた勉強会の開催(6組織延べ13回)</p> <p>6月 地元住民との交流の支援 ・小学校児童との田植え(若藤営農組合・利岡小学校)</p> <p>7月 中村地域集落営農研究会の開催 ・ワークショップ(農業集落の課題解決策等) 5地区9人参加(川登・利岡・森沢・間崎・竹島)</p> <p>10月 集落営農研究会の開催 ・ワークショップ(前回内容報告及び今後の集落のあり方)</p> <p>10月・1月 中村地域集落営農連絡協議会 ・法人化、先進組織の取り組み事例紹介</p> <p>10月～ 組織別座談会(集落営農組織:中村地域) ・次年度事業導入協議</p> <p>10月 地元住民との交流の支援 ・小学校児童との稲刈り(若藤営農組合・利岡小学校)</p> <p>12月 先進地視察(四万十町2カ所) ・組織化検討地区代表や既存組織が参加</p> <p>1月 西土佐地域集落営農組織連絡会の開催 ・既存の集落営農組織を対象に情報共有、組織関連携及びスキルアップへの支援</p> <p>2月 先進地視察(松前町) ・組織化検討地区代表や既存組織が参加</p>		◆農業経営を行う法人数 H26:2法人 →H31:9法人		<p>【再掲】</p> <p>○集落営農加速化支援事業(ソフト事業分) 【464千円】</p> <p>・先進地視察 (組織化への誘導、既存組織へのフォローアップ・支援)</p> <p>○組織化への誘導・支援</p> <p>・集落営農研究会の開催(年2回程度)</p> <p>・地区座談会 ※地区の現状や将来の課題等、住民が話し合い今後の方向性等を検討</p> <p>○既存組織へのフォローアップ</p> <p>・集落営農組織連絡協議会(年2回程度) 法人化、先進組織の取り組み事例紹介</p> <p>・組織別座談会 事業導入や法人化に向けた勉強会の開催</p> <p>・集落営農研究会の開催 ・ワークショップ(農業集落の課題解決策等)</p> <p>・地元住民との交流の支援 小学校児童との田植えや稲刈り (若藤営農組合・利岡小学校)</p>						
(2) こうち型集落営農の実践											
○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援	<p>○集落営農・拠点ビジネス支援事業</p> <p>・組織に対する農業用機械、施設整備の助成</p> <p>5月 大屋敷営農組合:動力噴霧器(作物:水稲)</p> <p>7月 田野川甲営農組合:育苗ハウス(作物:水稲)</p> <p>8月 山路営農組合:育苗ハウス、管理機(作物:水稲・ブロッコリー)</p> <p>○営農活動の持続・拡充に向けた取り組みの支援</p> <p>・集落営農組織:西土佐中央組合機械部会津賀支部において、水稲後作としてナバナの協業栽培への支援</p>	四万十市 (農林課、産業建設課) 集落営農組織 JA高知はた 生産者	◆収益性の高い品目を導入する組織が育成されている		<p>【再掲】</p> <p>○集落営農加速化支援事業(ハード事業分) 【23,217千円】</p> <p>・組織に対する農業用機械、施設整備への支援</p> <p>(農)入田村:コンバイン・籾摺り機 (農)四万十川営農組合:乗用田植機、畦塗り機 ふあーむ藪ヶ市:コンバイン 西ヶ方・方の川営農組合:畦塗り機、田植機、コンバイン、乾燥機ほか</p>						

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						農業分野					
						4 農地の利用促進					
						1. 農地の利用調整					
(1)農地利用の円滑化											
○農地中間管理機構の活用	○農地中間管理機構の活用 4月 中間管理事業農用地等借受希望(受け手)申請書新規受付 ・1組織:希望面積7ha 5月 中間管理事業業務受託契約(市・県農業公社) 7月 中間管理事業活用打合せ(藤の川地区) 8月 中間管理事業農用地等借受希望(受け手)申請書新規受付 ・2人:希望面積6ha 9月・10月 中間管理事業説明会 ○(農)四万十川営農組合(藤ノ川) 32筆(23,832㎡)を集積、営農	四万十市 (農林課、産業建設課) 農業委員会	◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化(流動化)が促進されている		○農地中間管理事業(農地流動化促進事業を含む) 231千円 ・農地中間管理機構(県農業公社)と連携した農地の集団化と担い手の育成 事業制度の周知 農地の出して農家の掘起し ほか ○農業委員による農地の利用調整 ・利用意向調査の実施 ・農地パトロール(空き農地情報の収集)						
◎地域の農業委員による農地の利用調整	○農業委員会による農地の利用調整 10月～11月 農業委員による農地パトロール 11月 農地の利用調整 ・新規就農者1件				—						
(2)営農類型等に応じた農地の集積											
○農業振興地域整備計画の全体見直し ○人・農地プラン作成、更新の支援 ○新規参入、品目転換における適地誘導	○人・農地プラン作成、更新の支援 10月～12月 西土佐農業座談会の開催(13か所) ・人・農地プラン周知 11月～ プラン見直し原案作成 ・地域の農業者や地権者、地区代表者等からの情報収集 12月～ プラン見直しに係る地区座談会の実施 ・中村地域11地区で開催 3月 人・農地プラン(見直し)検討会の開催	四万十市 (農林課、産業建設課) JA高知はた	◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化(流動化)が促進されている		【再掲】 ○人・農地問題解決加速化支援事業 【166千円】 ・人・農地プラン更新 座談会、見直し検討会の開催						
(3)基盤整備の推進											
○入田地区整備	○入田地区整備 H26.12月～ 工事着工 ・全体面積:41.0ha H26施工面積:3.4ha H27.4月～ 工事継続 ・H27施工面積:4.6ha 6月 基盤整備区域内園芸団地営農計画協議 入植者のハウス移転に係る事業説明等 (レンタルハウス整備事業)	四万十市 (農林課、産業建設課) 地区組織	◆ほ場整備実施面積 H26:973ha →H31:1,014ha		○入田地区整備(県営事業負担金) 30,000千円 ・全体面積:41.0ha H28施工面積:16ha ○利岡地区整備(県営事業負担金) 3,000千円 ・実施設計委託(計画面積:25.1ha) ○三里地区整備(県営事業負担金) 3,000千円 ・実施設計委託(計画面積:18.8ha)						
○利岡、三里地区整備	○利岡、三里地区整備 7月 土地改良事業計画概要書作成に伴う地元説明会 ・利岡地区:計画面積:25.1ha ・三里地区:計画面積:18.8ha 9月 両地区の促進計画、計画概要書作成 10月～ 法手続き開始 ・土地改良区設立に向けた協議										
○その他の地区整備	○整備検討地区との協議実施										

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要	
						農業分野
						2. 耕作放棄地対策
						(1)耕作放棄地の再生及び発生防止対策
○耕作放棄地の再生	○耕作放棄地の再生 7月 耕作放棄地再生作業打合せ(勝間地区) 10月 耕作放棄地再生作業 ・勝間地区:1.5ha 10月~11月 農業委員による農地パトロール 10月~ 各組織で実施する農地保全活動	四万十市 (農林課、産業建設課) 農業委員会 集落協定組織 農地・水保全組織	◆中山間地域等直接支払制度の実施農地面積 H31:461.6haを維持 ◆多面的機能支払制度の実施農地面積 H31:1,513haを維持		○耕作放棄地の再生 ・農業委員による農地パトロール ・各組織で実施する農地保全活動	
○耕作放棄地の発生防止対策	○耕作放棄地の発生防止対策 6月 多面的機能支払交付金活動組織合同研修会 ・参加組織数:44組織(80人) 7月 中山間地域等直接支払制度集落協定合同研修会 ・参加組織数:15組織(23人) 10月~ 各組織による農地保全活動 3月 多面的機能支払交付金活動組織合同研修会 【参考】 ○中山間地域等直接支払制度 ・活動組織:46組織(461.6ha) ○多面的機能支払制度 ・活動組織:63組織(1,513ha)				○耕作放棄地の発生防止対策 ・多面的機能支払推進交付金 (合同研修会開催ほか推進事務費含む) 121,873千円 ・中山間地域等直接支払交付金 (合同研修会開催ほか推進事務費含む) 85,555千円	
(2)適合品目の栽培促進						
○適合品目の栽培促進	○ぶしゅかん産地化推進 H27.3月 ぶしゅかん産地化推進事業 ・大川筋、東富山の中山間地域の耕作放棄地や不作付地に約95aのモデル園を設置 新規定植(苗木代の補助) 450本 95a(ほ場8カ所) 防護柵設置(資材費の補助) 1,250m(ほ場8カ所) 3月 ぶしゅかん産地化推進事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・中山間地域の耕作放棄地や不作付地にモデル園を設置 新規定植(苗木代の補助) 1,000本 200a(ほ場15カ所) 防護柵設置(資材費の補助) 2,750m(ほ場15カ所) ○水田転換ゆず推進 4月~ 水田転換ゆず定例会の開催(毎月1回) ・栽培管理指導、出荷検討(対象農家:10戸)	四万十市 (農林課、産業建設課) 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H26:0.9ha→ H31:12ha ◆ゆず栽培面積 H26:42.5ha →H31:42.5haを維持		【再掲】 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 【4,622千円】 ・新規定植(苗木への補助) 2,250本 450a ・有害鳥獣対策用防護柵(設置費への補助) 4,813m ○水田転換ゆず定例会の開催 ・栽培指導、出荷検討	

28年度当初予算額【農業分野】

423,694千円

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート【平成27年度(下半期)】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
林業分野					
1 四万十の山づくり					
1. 長期的視点に立った産地づくり					
(1)ヒノキ産地としての意識の醸成					
<p>★ヒノキ産地としての市民意識の醸成</p>	<p>○「四万十ヒノキの家」(モデルハウス)での見学・宿泊体験の実施 ・9月末現在:見学12人、宿泊体験50組(247人)</p> <p>○フェア等の開催 11月「幡多山もりフェス2015」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) ・「四万十ヒノキの家」出店・PR</p> <p>11月「西土佐産業祭」開催 ・西土佐村森林組合、四万十川森林ふれあい推進センターによるPR</p> <p>3月「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・四万十ヒノキ(ブランド化)PR ・木造建築相談(「四万十ヒノキの家」PR)</p>	<p>四万十市(農林課) 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会</p>	<p>◆市民、森林所有者へ品質に優れたヒノキ資源が全国有数であり、ヒノキ産地として森林整備の必要性が周知されているとともに、山(林業)や木材への関心が高まっている</p>		<p>○宿泊体験型モデルハウス管理費 397千円 ・「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施</p> <p>○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 200千円 ・「高知もくもくランド2016秋まつり」へ出展PR</p> <p>○フェア等の開催 - ・「幡多山もりフェス2016」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) 「四万十ヒノキの家」出店・PR</p> <p>○森林組合、林業事業体で森林所有者へのアプローチ・啓発、提案型集約化施策への地権者合意形成を推進 -</p>
<p>◎森林所有者の意識の醸成</p>	<p>○森林組合、林業事業体で森林所有者へアプローチ・啓発、提案型集約化施策への地権者合意形成を推進 9月「山の木を売りたい人」情報募集パンフレットの配布(区長回覧)</p>				
(2)計画的な森林管理・経営の促進					
<p>○森林資源の現状把握とデータ管理の徹底</p>	<p>○施業をした森林の森林簿のデータ修正・管理</p> <p>○森林整備地域活動支援交付金事業(H27年間計画) ・森林境界の確認:30.74ha</p>	<p>四万十市(農林課) 森林組合 林業事業体</p>	<p>◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている</p> <p>◆「森の工場」の認定面積 H26:3,586ha → H31:4,000ha</p>		<p>○施業をした森林の森林簿のデータ修正・管理 -</p> <p>○森林整備地域活動支援交付金事業 5,630千円 ・森林経営計画作成促進(経営委託型)面積80ha ・森林経営計画作成促進(共同施業型)面積230ha ・森林経営計画・施業集約化に向けた条件整備(路網整備):150ha</p>
<p>○経営類型の明確化</p>	<p>○森林経営計画の作成をとおして経営類型を明確化</p>				
(3)提案型集約化施策の推進					
<p>○森林所有者へのアプローチの強化</p> <p>○森林経営計画策定の促進</p> <p>○森の工場の推進</p>	<p>○森林組合、林業事業体で森林所有者へアプローチ・啓発、提案型集約化施策への地権者合意形成を推進 9月「山の木を売りたい人」情報募集パンフレットの配布(区長回覧)</p> <p>○森林整備地域活動支援交付金事業(H27年間計画) ・森林経営計画作成促進(経営委託型):108.72ha ・ " (共同施業型):401.8ha ・森林境界の確認:30.74ha ・森林経営計画・施業集約化に向けた条件整備(路網整備):222.27ha</p> <p>○森の工場(H27年間計画) ※「協働のもりづくり事業」含む 【新規着手】 ・江川(西ヶ方):搬出間伐5.5ha、作業道L=1,200m ・片魚北:皆伐7.30ha 【継続実施分】 ・片魚大屋敷:搬出間伐19.37ha、作業道L=3,300m ・伊才原:搬出間伐6.0ha、作業道L=1,700m ・富山西:搬出間伐44.0ha、作業道L=1,920m ・森沢・山路:搬出間伐20.0ha、保育間伐20.28ha、作業道L=760m ・三里・楠:搬出間伐20.32ha、作業道L=3,720m ・勝間・玖木・中半:搬出間伐14.27ha、皆伐0.9ha、作業道L=2,075m</p>	<p>四万十市(農林課) 森林組合 林業事業体</p> <p>・口鴨川:搬出間伐20.41ha ・上古尾:搬出間伐5.5ha、作業道L=1,120m ・半家:搬出間伐6.0ha、作業道L=1,070m ・奥屋内:搬出間伐30.02ha、作業道L=1,140m ・岩間:搬出間伐11.19ha、作業道L=1,400m</p>	<p>◆「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている</p> <p>◆「森の工場」の認定面積 H26:3,586ha → H31:4,000ha</p>		<p>○森林組合、林業事業体で森林所有者へのアプローチ・啓発、提案型集約化施策への地権者合意形成を推進 -</p> <p>【再掲】 ○森林整備地域活動支援交付金事業 【5,630千円】 ・森林経営計画作成促進(経営委託型)面積80ha ・森林経営計画作成促進(共同施業型)面積230ha ・森林経営計画・施業集約化に向けた条件整備(路網整備):150ha</p> <p>○森の工場 ※「協働のもりづくり事業」含む 49,674千円 【新規着手】 ・板ノ川地区:搬出間伐15.4ha、作業道1,200m ・津野川地区:搬出間伐10.7ha 【継続実施分】 ・常六地区(センチオロ):搬出間伐5.5ha、作業道600m ・伊才原地区(蕨岡工区):搬出間伐5.5ha、作業道960m ・西ヶ方地区(アヤマ):搬出間伐7.7ha、作業道1,440m 【協働の森協定締結分】 ・藤ノ川地区(岩間下甫喜):搬出間伐8.0ha、作業道360m ・半家地区(半家宮の川):搬出間伐9.9ha、作業道2,400m ・富山西地区(西平山):搬出間伐19.0ha、作業道2,400m ・九樹地区協働の森:搬出間伐6.0ha、作業道600m</p>

分野		平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
林業分野						
4. 林業事業体や担い手の確保、育成						
(1) 林業事業体及び林業技術者の育成支援						
○林業事業体、林業技術者の育成	<p>○「緑の雇用」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用者 7人(森林組合 6人、林業事業体 1人) ・継続2年目雇用者 2人(森林組合 1人、林業事業体 1人) ・継続3年目雇用者 2人(林業事業体 2人) <p>【参考】卒業生雇用者(森林組合 18人、林業事業体 8人)</p> <p>○林業技術研修の開催 (主催: 幡多流域林業活性化センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月 架線(センイロープ)集材研修 9月 作業道開設技術研修 11月 作業道開設技術研修 <p>○「四万十ヒノキブランド化推進協議会」でモデル林整備(枝打)を実施</p> <p>○「四万十ヒノキブランド化推進協議会」で長伐期の講習会を実施</p> <p>○市有林整備事業(H27年間計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬出間伐: 32.95ha(うち6.5haを簡易架線による施業実施) 	<p>四万十市(農林課)</p> <p>森林組合 林業事業体</p> <p>四万十ヒノキブランド化推進協議会 幡多林業活性化センター</p>	<p>◆経営能力の高い森林組合、林業事業体が効率的な生産活動を展開している</p> <p>◆効率的な林業生産活動を行うことができる優れた担い手が育成されている</p> <p>◆新規林業就業者数 3人/年</p>		<p>○「緑の雇用」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用3人の予定 <p>○幡多流域林業活性化センター負担金 85千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・架線(センイロープ)集材研修 ・集材ウッドライナー(ラジキャリの馬力の大きいタイプ) ・本格架線DVDによる技術継承 <p>○中村森林組合貸付金 10,000千円</p> <p>【再掲】</p> <p>○環境林整備事業(組合等が県へ直接申請)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材生産を目的とせず、森林の環境公益の発揮を目指す森林を「環境林」と定め、切捨て間伐を実施 ・森林組合の事業量(収益)の確保 <p>※面積調査中</p>	
○森林組合の経営力強化	○「環境林整備事業」への新規取組みなど、積極的な制度事業の活用による事業量(収益)の確保					
(2) 森林保育等の活動グループへのアプローチ						
★兼業型林業事業者の育成支援	<p>○林地残材の搬出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス証明書発行...新規4件: 搬出量1,820m³(用材を含む) <p>○高性能林業機械等整備(小規模林業事業者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シメントモリモリ団...バックホウ2台(レンタル) <p>○次年度の補助要望等の情報収集</p>	<p>四万十市(農林課)</p> <p>兼業型林業事業者</p>	◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている		<p>○林地残材の搬出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス証明書発行 <p>○高性能林業機械等整備(小規模林業事業者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シメントモリモリ団等(バックホウレンタル) <p>※県へ要望中</p>	
(3) 自伐林家及び集落組織等の育成						
★自伐林家及び集落組織等の育成	<p>○林地残材の搬出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス証明書発行...新規4件: 搬出量1,820m³(用材を含む) <p>○森林・山村の多面的機能発揮対策交付金事業(H27年間計画)</p> <p>【活動組織】14組織(「東富山の森を生かす会」ほか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山保全活動 73.6ha ・侵入竹除去 17.2ha ・森林資源利用 20.5ha ・森林機能強化 L=2,320m(作業道整備) ・教育研修 2回 <p>○次年度の補助要望等の情報収集</p>	<p>四万十市(農林課)</p> <p>自伐林家等</p>	◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている		<p>○林地残材の搬出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス証明書発行 <p>○森林・山村の多面的機能発揮対策交付金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動組織: 23組織要望予定 	

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						林業分野					
						2 供給体制の強化					
						1. 加工事業体の生産力等強化					
(1)木材製品の生産の拡大・商品力の強化											
◎木材製品の生産の拡大・商品力の強化		四万十市(農林課) 製材加工事業者	◆木材・木製品製造品 出荷額等 H24:7億5,000万円 → H31:8億円								
(2)木工製品の生産の拡大・商品力の強化											
★木工製品の生産の拡大・商品力の強化		四万十市(農林課) 製材加工事業者	◆木材・木製品製造品 出荷額等 H24:7億5,000万円 → H31:8億円								
2. 供給体制の効率化											
(1)市産材製品ストック施設整備											
★市産材製品のストック施設整備		四万十市(農林課)	◆市産材製品ストック 施設整備 → H31:整備		○公共施設の木材利用見込み等を踏まえ整備を検討						
(2)山元選別の促進による流通経費の削減											
★山元選別の促進による流通経費の削減		四万十市(農林課) 森林組合 林業事業者 製材加工事業者	◆流通の効率化が進み、 市産材の流通量が拡大している								
(3)木材流通ネットワークの構築											
★木材流通ネットワークの構築	○幡多流域林業活性化センター 7月～ 通常総会ほか ・会員:26団体 (素材生産・加工・流通事業者、建築団体、関係行政機関) ・林業生産性の向上、林業技術者の確保・育成、製材・加工・流通事業者、利用者(建築等)間の連携促進	四万十市(農林課) 森林組合 林業事業者 製材加工事業者 設計・建築事業者	◆川上(素材生産・加工) から川下(設計・建築)までの 事業者間連携が図られ、 市産材の流通量が拡大している		【再掲】 ○幡多流域林業活性化センター 【85千円】 ・林業生産性の向上、林業技術者の確保・育成、製材・加工・流通事業者、利用者(建築等)間の連携促進 会員:26団体 (素材生産・加工・流通事業者、建築団体、関係行政機関)						
3 市産材の利用促進と販売力の強化											
1. 市産材の利用促進											
(1)公共建築等での市産材の率先利用											
◎公共建築物の木造化・木質化の促進	○H27建築計画 ・道の駅「よつて西土佐」(木造:木材使用量 186㎡) ・道の駅「よつて西土佐」展望デッキ(木造:木材使用量 16㎡) ・井沢地区防災コミュニティセンター(木造:木材使用量 31㎡) ・消防団竹屋敷分団屯所(木造:木材使用量 21㎡) ・宮路公衆トイレ(木造:木材使用量 6㎡) ・具同小学校体育倉庫(木造:木材使用量 6㎡) ・スクールミールぐどう(S造:木材使用量 1㎡) ・中村中学校屋内運動場(RC造:木材使用量 34㎡) ・西土佐中学校屋内運動場 (RC造、屋根木造:木材使用量 92㎡) ※木製建具・家具は除く	四万十市(農林課)	◆公共建築物において、 積極的に市産材が使われている		○H28建築計画 ・具同地区防災活動拠点施設(木造) ・東山地区防災活動拠点施設(木造) ・坂本地区防災コミュニティセンター(木造) ・東山小学校学区学童保育施設(木造) ・中村中学校屋内運動場(RC造:木質化) ※H27～継続						

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
林業分野									
				(2)木造住宅の建築促進					
				◎木造住宅建築への支援 ★コーディネイト組織の設立	○市産材利用促進事業 ・広報6月号でPR ・広報10月号でPR 年間利用件数見込み:30件 ○「四万十ヒノキの家」(モデルハウス)での見学・宿泊体験の実施 ・9月末現在:見学12人、宿泊体験50組(247人)	四万十市(農林課) 設計・建築事業者	◆戸建て住宅において、積極的に市産材が使われている ◆市産材利用促進事業の着工件数 30戸/年		○市産材利用促進事業 ・年間利用件数見込み:30件 【再掲】 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 ・「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 【397千円】
				(3)木造化、木質化への情報発信、普及、啓発の強化					
				◎木造化、木質化への情報発信、普及、啓発の強化 ★地元消費拡大フェアの開催	○「四万十ヒノキの家」(モデルハウス)での見学・宿泊体験の実施 ・9月末現在:見学12人、宿泊体験50組(247人) ○フェア等の開催 11月「幡多山もりフェス2015」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) ・「四万十ヒノキの家」出店・PR 11月「西土佐産業祭」開催 ・西土佐村森林組合、四万十川森林ふれあい推進センターによるPR 3月「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・四万十ヒノキ(ブランド化)PR ・木造建築相談(「四万十ヒノキの家」PR)	四万十市(農林課) 森林組合 四万十ヒノキブランド化推進協議会	◆ヒノキ産地として市民の関心と市産材の利用意識が高まっている ◆産業祭来場者数 H25:2,000人 → H31:20,000人		【再掲】 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 ・「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 【397千円】 【再掲】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 ・「高知もくもくランド2016秋まつり」へ出展PR 【200千円】 ○フェア等の開催 ・「幡多山もりフェス2016」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) 「四万十ヒノキの家」出店・PR -
				2. 木質バイオマス利用促進					
				(1)林地残材等の搬出の促進					
				◎林地残材等の搬出の促進	○個人の皆伐を経営計画に組み込み林地残材の有効利用を促進 ・申込件数2件・・・搬出量:10,234㎡(用材含む) ○林地残材の搬出促進 ・バイオマス証明書発行・・・新規4件:搬出量1,820㎡(用材を含む)	四万十市(農林課) 森林組合 林業事業体 兼業型林業事業者 自伐林家等	◆林地残材等が木質バイオマスエネルギーをはじめ、様々な用途で有効利用されている		○個人の皆伐を経営計画に組み込み林地残材の有効利用を促進 ○林地残材の搬出促進 ・バイオマス証明書発行 -
				(2)木質バイオマス利用設備の普及促進					
				◎木質バイオマスボイラー等の普及促進	○木質バイオマス利用施設等整備事業 ・介護施設新設における木質バイオマスボイラー導入要望あり、協議中 12月 農業用ハウス先進地視察(千葉県) 「四万十農園めぐりっこ」への導入検討	四万十市(農林課)	◆木質バイオマス起源のグリーンエネルギーが幅広く利用されている		○木質バイオマス利用施設等整備事業 ・石油価格下落により調整中 -
				3. 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化					
				(1)四万十ヒノキブランドの確立					
				◎四万十ヒノキのブランド化の推進	○「四万十ヒノキの家」(モデルハウス)での見学・宿泊体験の実施 ・9月末現在:見学12人、宿泊体験50組(247人) ○「四万十ヒノキブランド化推進協議会」の開催 5月、8月 ロゴマークの商標登録準備 10月開催のほか年度内2~3回開催予定 ○フェア等の開催 11月「幡多山もりフェス2015」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) ・「四万十ヒノキの家」出店・PR 11月「西土佐産業祭」開催 ・西土佐村森林組合、四万十川森林ふれあい推進センターによるPR 3月「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 ・四万十ヒノキ(ブランド化)PR ・木造建築相談(「四万十ヒノキの家」PR) ○協働のもりづくり 5カ所(4企業)・・・体験交流、四万十ヒノキPR	四万十市(農林課) 四万十ヒノキブランド化推進協議会	◆「四万十ヒノキ」として知名度が向上し、大消費地での販路が拡大している		【再掲】 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 ・「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 【397千円】 【再掲】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 ・ブランド化協議 ・「高知もくもくランド2016秋まつり」へ出展PR 【200千円】 ○フェア等の開催 ・「幡多山もりフェス2016」開催 (主催:幡多地域7森林組合が中心の実行委員会) 「四万十ヒノキの家」出店・PR - ○協働の森づくり ・4企業・・・体験交流、四万十ヒノキPR 123千円

分野		平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
林業分野						
(2)四万十ヒノキ製品の生産拡大、商品力の強化						
【再掲】 ◎木材製品の生産拡大・商品力の強化			四万十市(農林課) 製材加工事業者	◆木材・木製品製造品 出荷額等 H24:7億5,000万円 → H31:8億円		
【再掲】 ◎木工製品の生産拡大・商品力の強化						
(3)四万十ヒノキ製品の販売力の強化						
◎四万十ヒノキ製品の販売力の強化		○四万十ヒノキブランド化推進協議会 10月「もくもくランド2015」出店(高知市中央公園) (主催:高知県木材普及推進協会、高知県) ・四万十ヒノキのPR	四万十市(農林課) 四万十ヒノキブランド化推進協議会	◆「四万十ヒノキ」として知名度が向上し、大消費地での販路が拡大している		【再掲】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 ・「高知もくもくランド2016秋まつり」へ出展PR 【200千円】
4 健全な森づくり						
1. 人と鳥獣の良好・適切な環境づくり						
(1)鳥獣被害対策						
【再掲】 ◎防護柵の設置と捕獲の促進		○防護柵設置(H27年間計画) ・地区単位設置分・・・18地区:金網柵 L=40,440m ・個人単位設置分・・・金網柵 L=1,807m 電気柵 L=4,650m 複合柵 L=260m ○有害鳥獣捕獲報奨金による捕獲 年間計画:シカ 5,100頭 イノシシ 1,800頭 サル 100頭 ハクビシン 250頭	四万十市(農林課) 四万十市有害鳥獣被害対策協議会	◆シカの捕獲頭数 H26:4,446頭 → H31:6,000頭		【再掲】 ○防護柵設置 【3,350千円】 ○国防護柵設置 ※要望中 (事業主体:四万十市有害鳥獣被害対策協議会) ・地区単位設置分・・・26地区:金網柵 L=101,600m 【再掲】 ○有害鳥獣捕獲報奨金による捕獲 ・年間計画:シカ 4,600頭 イノシシ 1,500頭 サル 100頭 ハクビシン 300頭 【87,676千円】
(2)捕獲の担い手確保、育成						
◎捕獲の担い手の確保、育成		○新規狩猟者の確保 ・広報6月号、11月号でPR 新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助 年間利用者数見込み:40人 新規狩猟者射撃教習受講料補助 年間利用者数見込み:3人 【参考】 狩猟免許保有者数(H27現在) ・第一種銃猟 217人 ・第二種銃猟 22人 ・わな猟 339人 ・網猟 1人 延べ579人(実数457人)	四万十市(農林課) 猟友会	◆シカの捕獲頭数 H26:4,446頭 → H31:6,000頭		○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助 ・年間利用者数見込み:35人 245千円 ○新規狩猟者射撃教習受講料補助 ・年間利用者数見込み:2人 74千円
2. 森のものの活用						
(1)特用林産物の生産活動の支援とPR						
◎特用林産物の生産活動への支援とPR ★新規就業者の育成		○特用林産物の生産活動支援 ・広報7月号:椎茸原木購入補助募集PR 椎茸原木購入補助 年間利用者数見込み:1,050石	四万十市(農林課)	◆特用林産物 (しいたけ、木炭)生産量 H25:48,466kg → H31:55,000kg		○特用林産物の生産活動支援 ・椎茸原木購入補助 年間利用者数見込み:1,050石 2,100千円

28年度当初予算額【林業分野】
255,174千円

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート【平成27年度(下半期)】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						水産業分野					
						1 水産資源の回復・生産量UP					
						1. 天然水産資源の回復・増殖					
(1)漁場環境、資源量等の調査・研究											
<p>◎漁場環境、資源量等の調査・研究</p> <p>◎調査結果の広報活動</p>	<p>○高知大学との連携事業による調査 【スジアオノリの生産量アップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川環境調査(毎月) ・生態・生育調査(毎月) ・河川生育試験(11月～3月):浮かし網1.2m×20m <p>9月 アユ・スジアオノリ調査結果報告会開催 「スジアオノリについての報告」(高知大学平岡准教授) 「アユについての報告」(高知大学木下教授・西日本科学) 「最新のヒトエグサ研究」(高知大生) 「四万十川再生事業の取組」(国交省)発表 ほか 参加者:50名</p> <p>【アユの資源回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産卵場調査(10月～11月) ・浮遊期仔魚(河口・海域)調査(1月～3月) ・生育場(下流域)調査(1月～3月) ・水質調査(1月～3月) <p>○四万十川漁業振興協議会による調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユの冷水病調査(6月～12月) ・生殖腺調査(10月～12月) <p>○県水産振興課による調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テナガエビ分布状況・産卵調査(6月～10月) 	<p>四万十市(観光課)</p> <p>四万十市・高知大学 連携事業推進会議</p> <p>四万十川漁業振興 協議会</p> <p>漁業協同組合</p>	<p>◆漁場環境や資源量の等の継続的な把握と減少要因の分析が進み、漁業者と情報が共有され、天然資源の回復・増殖に向け関係者が連携した取組みが進んでいる</p>		<p>○高知大学連携事業による調査等 (事業主体:四万十市・高知大学連携事業推進会議)</p> <p>地方創生加速化交付金を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然スジアオノリ生産量アップの取組み 河川環境調査、生態・生育調査 生態・生育調査 調査結果報告会開催 ・天然アユの資源回復の取組み 産卵場調査 浮遊期仔魚(河口・海域)調査 生育場(下流域)調査 水質調査 調査結果報告会開催 <p>○四万十川漁業振興協議会補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユの冷水病調査 ・生殖腺調査 <p>○県水産振興課による調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テナガエビの資源回復に向け、H27年度調査結果をもとにH28の取組みを協議 	<p>3,580千円</p> <p>150千円</p> <p>—</p>					
(2)生育・漁場環境の保全・整備											
<p>○スジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備</p> <p>○アユの産卵場の再生と保全管理</p> <p>○イセエビ漁礁設置による漁場整備</p>	<p>○国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚のゆりかご事業 ～汽水域浅場の再生～ 6月～8月 山路砂州(堆積土砂)切下げ V=13,901m³ ・アユの瀬づくり事業 ～瀬の再生・攪乱環境の復元～ 7月～10月 入田(大浦産卵場付近)堆積土砂切下げ V=27,400m³ <p>○スジアオノリ漁場整備支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十川下流漁協からの要望により河川形状整備等への支援 <p>○イセエビ漁礁設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年に1回の間隔で下田沖、名鹿沖に投石漁礁設置を実施 (H26に実施、次回はH29に実施予定) 	<p>四万十市(観光課)</p> <p>四万十川自然再生 協議会</p> <p>漁業協同組合</p>	<p>◆内水面漁業漁獲量 H24:56t → H31:65t</p> <p>◆海面漁業漁獲量 H24:30t → H31:35t</p>		<p>○国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚のゆりかご事業 ～汽水域浅場の再生～ ・アユの瀬づくり事業 ～瀬の再生・攪乱環境の復元～ <p>○スジアオノリ漁場整備補助金 (事業主体:四万十川下流漁業協同組合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川形状整備等 	<p>—</p> <p>400千円</p>					

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
水産業分野	(2)資源保護のための情報発信の強化					
	◎資源保護のための情報発信の強化	○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 9月 広報誌へ掲載 11月 広報誌へ「アユ・スジアオノリ調査結果報告会」の報告内容掲載PR ○高知大学との連携事業による調査 9月 アユ・スジアオノリ調査結果報告会開催 「スジアオノリについての報告」(高知大学平岡准教授) 「アユについての報告」(高知大学木下教授・西日本科学) 「最新のヒエグサ研究」(高知大生) 「四万十川再生事業の取組」(国交省)発表 ほか 参加者:50名	四万十市(観光課) 漁業協同組合 高南幡東漁業秩序を守る会(海面漁業)	◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取組みが進んでいる		○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・広報誌への掲載周知 ○高南・幡多地区漁業秩序を守る会負担金 80千円 【再掲】 ○高知大学連携事業による調査等 【3,580千円】 (事業主体:四万十市・高知大学連携事業推進会議) 地方創生加速化交付金を活用 ・天然スジアオノリ生産量アップの取組み 調査結果報告会開催 ・天然アユの資源回復の取組み 調査結果報告会開催
4. 担い手の確保、育成	(1)協業化の促進					
	★協業化の促進		四万十市(観光課) 漁業協同組合	◆漁業協同組合や漁業者間の連携が促進され、協業化の動きが生まれている		
	(2)新規就業者のための研修・フォローアップ					
	★講習会、研修会の開催 ◎受入漁家による研修制度の拡充 ★フォローアップ体制の確立		四万十市(観光課) 漁業協同組合	◆漁業体験研修の受講者数 H27～H31の5年間で3人		○県と連携した講習会、研修会等への参加促進
2 水産物の加工、販売促進	1. 水産物の高付加価値化の推進					
	(1)今ある商品の磨き上げ					
	◎品質管理の向上 ★商品力の強化	○下流漁協においてアオサ(ヒエグサ)、スジアオノリの生産工程(洗い・選別)の均一化と品質管理の徹底を指導	四万十市(観光課・産業建設課) 漁業協同組合	◆安定した品質が確保され、販売額の増加につながっている		○下流漁協においてアオサ(ヒエグサ)、スジアオノリの生産工程(洗い・選別)の均一化と品質管理の徹底を指導 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【6,470千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 ※四万十川西部漁協「あゆ市場」参画
	(2)新たな商品開発					
	★未利用資源等の掘起しと利活用 ★新たな商品の企画・開発の支援	○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業(実施主体:榊西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ 商品企画・開発ワークショップの開催 四万十川西部漁協「あゆ市場」参画 新商品提案:ナマズのフライ(串)、アユのひらき(ひらき)	四万十市(観光課・産業建設課) 漁業協同組合	◆一次産品等を活かした新商品の開発 H31:15アイテム ※水産加工品以外を含む		【再掲:観光分野と共通】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 【400千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発(アドバイザー招致等) 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【6,470千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 ※四万十川西部漁協「あゆ市場」参画

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
水産業分野	2. 販売力の強化と販路拡大	(1)漁協の販売機能の強化	◎漁協の販売機能の強化 ★販路を見据えた漁業	○四万十川西部漁協「あゆ市場」販売体制の強化 4月～ 新規雇用 1名 ○道の駅「よって西土佐」施設整備 四万十川西部漁協「あゆ市場」出店 8月 建築工事着工 3月 完成(プレオープン) ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: ㈱西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・「道の駅戦略会議」の設立 四万十川西部漁協「あゆ市場」参画 5月～ 道の駅開業までの課題、開業後の運営等について 週2回のペースで協議を継続 10月～ 開業PR活動、県内外への積極的な営業活動の強化 WEBでの発信、クラウドファンディングの活用等による道の駅「よって西土佐」のファンづくりを実施	四万十市 (観光課・産業建設課) 漁業協同組合	◆漁業協同組合の 販売機能 H31:強化	○製氷機入替工事補助金 (事業主体: 下田漁業協同組合) 2,442千円 ○道の駅「よって西土佐」開設 ・四万十川西部漁協「あゆ市場」出店 【再掲: 商工業分野と共通】 ○地域商社「㈱西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 【2,391千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体: 四万十川西部漁協「あゆ市場」)		
	(2)ブランド力の強化と販路拡大	◎ブランディングの構築と発信 ★地元消費拡大フェアの開催 ★地産地消認証店制度 ★産業間連携による外商活動 ○商談会等販路開拓・拡大の支援	○四万十川西部漁協「あゆ市場」外商活動 4月 西土佐ふるさと市「春の感謝祭」出店 8月 西土佐ふるさと市「夏の感謝祭」出店 9月 ー41℃物産交流連携・調整事業 (事業主体: (株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用 「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に 「あゆ市場」出展 四万十川流域フェスタ(道の駅みま)出店 10月 予とうまいもの合戦(松野町)出店 フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市)出店 11月 友好・交流都市物産展(枚方市)出店 西土佐産業祭・うまいもの商店街出店 四万十まるごと幡多まつり(岡山県津山市)出店 1月 土佐おさかなまつり(高知市)出店 2月 四万十川流域観光物産展(道の駅みま)出店 ○なしし港まつり「海のビタミン大博覧会」開催 9月 名鹿地区主催による物産販売等 ○「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 3月 漁業協同組合連携による出店 (水産物、水産加工品の販売、大学連携事業の展示等)	四万十市 (観光課・産業建設課) 漁業協同組合	◆四万十川産の知名度、 ブランド力が向上し、有利 販売につながっている ◆産業祭来場者数 H25: 2,000人 → H31: 20,000人	【計画の変更】 ○「広域連携による外商活動」をアクションプランに追加し、 ・連携組織体制の構築と広域連携による外商活動の推進 を取組内容に記載	【再掲: 商工業分野と共通】 ○四万十フェア開催 【1,394千円】 ・首都圏、中国地方で地域産品のPR、販売フェアを実施 【再掲: 商工業分野と共通】 ○地産外商促進 【499千円】 ・春・冬の味覚祭(高知大丸)、フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市)への出展ほか 【再掲: 商工業分野と共通】 ○枚方市・四万十市友好都市交流物産展 【66千円】 ・枚方物産展への出展 【再掲: 商工業分野と共通】 ○幡多広域地産外商推進協議会負担金 【50千円】 ・幡多6市町村で協議会を新設し、広域連携による外商活動を展開 【再掲: 商工業分野と共通】 ○産地視察型商談会の開催(県との連携事業) - 【再掲: 商工業分野と共通】 ○地域商社「㈱西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 【22,332千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体: 四万十川西部漁協「あゆ市場」) ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流 ・サテライトショップ開設(松山市) ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・クラウドファンディングを活用したファンづくり(販路開拓) ※四万十川西部漁協「あゆ市場」参画		

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
水産業分野					
3. 魚食文化の磨き上げと発信					
(1) 魚食文化の磨き上げ					
★魚食文化の磨き上げ 【再掲】 ★未利用資源等の掘起しと利活用	○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 榊西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 四万十川西部漁協「あゆ市場」参画 新商品提案: ナマズのフライ(串)、アユのひらき ほか	四万十市 (観光課・産業建設課) 漁業協同組合 中村料理飲食店組合 事業者	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や交流人口の拡大につながっている。		【再掲: 観光分野と共通】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 【400千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発(アドバイザー招致等) 【再掲: 商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【6,470千円】 (道の駅「よつて西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 ※四万十川西部漁協「あゆ市場」参画
(2) 魚食文化の発信強化					
★グルメイベント等での魚食文化の発信	○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体: 四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ ・「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設) ・四万十の食発信事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 3月 四万十川の幸(アユ、ウナギ、ゴリ、青のり、塩タタキなど)の伝統漁法、食べ方、料理法などの説明リーフレットの作成(インバウンド対応) ○四万十川西部漁協「あゆ市場」外商活動 4月 西土佐ふるさと市「春の感謝祭」出店 8月 西土佐ふるさと市「夏の感謝祭」出店 9月 +-41℃物産交流連携・調整事業 (事業主体: (株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用 「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に「あゆ市場」出展 四万十川流域フェスタ(道の駅みま)出店 10月 予土うまいもの合戦(松野町)出店 フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市)出店 11月 友好・交流都市物産展(枚方市)出店 西土佐産業祭・うまいもの商店街出店 四万十まるごと幡多まつり(岡山県津山市)出店 1月 土佐おさかなまつり(高知市)出店 2月 四万十川流域観光物産展(道の駅みま)出店 ○なしし港まつり「海のビタミン大博覧会」開催 9月 名鹿地区主催による物産販売等 ○「しまんとの子カラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 3月 漁業協同組合連携による出店 (水産物、水産加工品の販売、大学連携事業の展示等)	四万十市 (観光課・産業建設課) 漁業協同組合 事業者	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や交流人口の拡大につながっている。		【再掲: 商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【22,332千円】 (道の駅「よつて西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体: 四万十川西部漁協「あゆ市場」) ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流 ・サテライトショップ開設(松山市) ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・クラウドファンディングを活用したファンづくり(販路開拓) ※四万十川西部漁協「あゆ市場」参画

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						水産業分野					
						3 水産資源を活用した交流の拡大					
						1. 体験交流の推進					
(1)魅力ある体験商品づくり											
★体験商品の磨き上げ ★川の体験ガイドブックの作製	<p>○四万十川下流域体験型観光事業 (実施主体:(株)JUMIコーポレーション) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>8月～ 伝統漁法(投網漁、石ぐる漁、柴漬け漁、コロバシ漁など)と四万十川料理を食す体験型観光メニューを造成・販売(川漁師と民間事業者の連携事業)</p> <p>○四万十川グルメと西土佐火振り漁体験事業 (実施主体:四万十川火振り漁体験実行委員会) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>10月 火振り漁と四万十川料理を食す体験プログラムを造成・販売</p>	四万十市 (観光課) 漁業協同組合 事業者	◆体験・宿泊等のプラン 造成件数 H31:10アイテム ※漁業体験以外を含む		<p>【再掲】 ○四万十川漁業振興協議会補助金 【150千円】 ・川漁体験学習等</p> <p>【再掲:観光分野と共通】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【148千円】 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用</p> <p>・地域ならではの魅力的な教育旅行プログラムの造成 (漁業や林業、環境学習、インドアのプログラム開発)</p>						
(2)体験教室等の開催											
◎体験教室の開催	<p>○種苗放流体験 4月 稚アユ放流(蔵岡小学校、西土佐小学校) 5月 ヒラメ稚魚放流(下田小学校) 9月 ウナギ放流(西土佐小学校)</p> <p>○アユのしゃくり漁体験 7月 しゃくり漁、つかみ取り体験、あゆの塩焼き(大用小中学校)</p> <p>○四万十川ガキ体験 8月 柴漬け漁、コロバシ漁、川遊び体験 (市内の幼児・小学生の親子)</p> <p>○親子川漁体験 10月 投網漁体験、アユのつかみどり(市内小・中学生の親子)</p>	四万十市 (観光課) 漁業協同組合 四万十の日実行委員会	◆自然や漁業への関心と 資源保護に対する市民意 識が向上している		<p>○種苗放流体験 ・各漁業協同組合の種苗放流時に実施 稚アユ放流体験 ヒラメ稚魚放流体験 ウナギ放流体験</p> <p>○四万十の日実行委員会補助金 150千円 ・四万十川ガキ体験 (柴漬け漁、コロバシ漁、川遊び体験) ・親子川漁体験 (投網漁体験、アユのつかみどり)</p> <p>○アユのしゃくり漁体験 (事業主体:大用小中学校PTA) -</p>						

28年度当初予算額【水産業分野】

25,617千円

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート【平成27年度(下半期)】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野					
1 顧客に選ばれる商工業の振興					
1. 地域資源を活かした商品開発					
(1)今ある特産品等商品の磨き上げ					
○テストマーケティング	○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○特産品等販売促進事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 8月 展示商談会(「外食ビジネスウイーク(東京)」に、四万十市として単独出展し、販路開拓・拡大 2月 展示商談会(「スーパーマーケットトレードショー(東京)」に県地産外資公社と連携し(県ブース)、四万十市として出展、市内加工品の販路開拓・拡大 ○県内量販店テストマーケティング事業(県との連携) 11月 土佐山田ショッピングセンターで実施(対象1事業者)	四万十市 (商工課、産業建設課、 農林課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商品の磨き上げに積極的に取り組む事業者が増加している ◆加工原料の安定確保と地域資源の付加価値向上により、雇用創出と生産者の所得向上につながっている		○特産品等販売促進事業 3,399千円 ・首都圏での大規模商談会への出展 スーパーマーケットトレードショー 東京インターナショナルギフトショー ○産地視察型商談会の開催(県との連携事業) — ○県内量販店でのテストマーケティング(県との連携事業) — ○県などが開催する食品表示セミナー等への参加促進 — ○地域の頑張る人づくり事業補助金 1,402千円 (事業主体: 四万十市地域商品研究会) ・市内事業者が連携、参画し、商品開発、マーケティング、ブランディング、クレーム対応等のスキルアップ研修を実施(専門アドバイザーの招致、年間6講座予定)
○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化	○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・商品開発等の課題、研修ニーズ等の把握 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進 ・売れる商品づくり、POP講座等の開催(3回) 11月～2月 人材育成研修事業 ・商品づくり(衛生管理やマーケティング等)における基礎的知識の習得 ○研修事業等の情報提供 6月～ 食品表示セミナー(県主催)等 ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○特産品販路拡大事業 (実施主体: しまんと百笑かんぱに(株)) 四万十市産振総合補助金を活用 ・商品の品質適正化等 1月 金属探知機、自動梱包機の導入				○農商工連携検討チームの開催 — ・地場産品を活用した原材料の確保や販路の拡大と経営の安定に向けた支援(対象: 4事業者) 【再掲】 ○地域商社「株式会社西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【6,470千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会
◎加工原料の安定確保に向けたマッチングの促進	○農商工連携事業検討チーム 6月～8月 課題の整理、改善策等の検討(対象4事業者) 2月～3月 年度実績及び次年度事業計画の確認等 ○道の駅地域産品開発等特別対策事業 9月～ 加工食品等の開発支援及び農産物出荷体制に向けた施設整備等の支援(ミニレンタルハウスの整備: 2棟)				

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						商工業分野					
						(2)魅力ある素材・アイデアの掘起し					
						(3)新たな特産品等の商品開発					
◎事業者、地域等の提案を拾い上げる体制強化 ★事業者間のマッチング機会の創出	○地域のグループ(三ツ又・大屋敷)との意見交換会 7月・8月 地域の情報発信や商品開発等に向けた取組について総合的な支援策等を検討 9月～1月 課題の整理、次年度計画等の策定支援 ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進	四万十市 (商工課、産業建設課、農林課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆事業者や地域からの提案、相談に対してワンストップで対応できる体制が充実している ◆1次産品等を活かした新商品の開発 H31:15アイテム		○地域おこし協力隊事業 ・6名配置 【再掲】 ○地域の頑張る人づくり事業補助金 (事業主体: 四万十市地域商品研究会) ・市内事業者間及び官民の情報共有と連携の促進 26,409千円 【1,402千円】						
○新たな商品・サービス等の企画・開発支援 ○アドバイザーの派遣	○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・売れる商品づくり、POP講座等の開催(3回) 11月～2月 人材育成研修事業 ・商品づくり(衛生管理やマーケティング等)における基礎的知識の習得 ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○地元素材を活用した新商品開発・販促事業 (実施主体: WANLIFE) 四万十市産振総合補助金を活用 ・地元素材を活用したペットフードの商品開発 (高知工科大学と連携) ○加工品開発等の新規事業創設の検討 12月～ 市、関係機関で立上げに向けた検討・協議 (事業主体(予定): 雇用創造促進協議会)	四万十市 (商工課、産業建設課、農林課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆1次産品等を活かした新商品の開発 H31:15アイテム		【再掲】 ○特産品等販売促進事業 ・首都圏での大規模商談会への出展 スーパーマーケットトレードショー 東京インターナショナルギフトショー 【再掲】 ○産地視察型商談会の開催(県との連携事業) 【再掲】 ○県内量販店でのテストマーケティング(県との連携事業) 【再掲】 ○県などが開催する食品表示セミナー等への参加促進 【再掲】 ○地域の頑張る人づくり事業補助金 (事業主体: 四万十市地域商品研究会) ・市内事業者が連携、参画し、商品開発、マーケティング、ブランディング、クレーム対応等のスキルアップ研修を実施 (専門アドバイザーの招致、年間6講座予定) 【再掲】 ○地域商社「株式会社西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・百貨店バイヤー等招致研修会 【3,399千円】 - - - 【1,402千円】 【6,470千円】						
○試作品のテストマーケティング	○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体: 株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○特産品等販売促進事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 8月 展示商談会(「外食ビジネスウイーク(東京)」に、四万十市として単独出展し、販路開拓・拡大 2月 展示商談会(「スーパーマーケットトレードショー(東京)」に県地産外資公社と連携し(県ブース)、四万十市として出展、市内加工品の販路開拓・拡大 ○県内量販店テストマーケティング事業(県との連携) 11月 土佐山田ショッピングセンターで実施(対象1事業者)										

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野					
(4)商品の販路開拓・販売促進					
★地元消費拡大フェアの開催 ★地産地消認証店制度	○四万十スイーツフェスタ vol.4 4月 市内の菓子事業者による新作菓子等の試食イベント (実施主体:中村菓子パン工業組合ほか) ○西土佐ふるさと市「春の感謝祭」 ・たけのこほり体験、加工品販売など ○商店街活性化モデル事業 5月 公家行列及び地域産品の販促PRを支援 ○四万十ぶしゅかん(株)と連携した認知度向上、販路開拓、 7月～ ぶしゅかんTV-CM展開(県内3社) (実施主体:四万十ぶしゅかん(株)) 四万十市産振総合補助金を活用 ・ぶしゅかん及び加工品の認知度向上の取組を推進 ○ふるさと市「夏の感謝祭」 8月 いごっそうなすの試食等地域産品をPR・販売 ○「西土佐産業祭」・「うまいもの商店街」 11月 農林水産物の品評会・即売会、加工品販売 ○西土佐ふるさと市「冬の感謝祭」 12月 米の消費拡大(杵つきもち)など ○「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」開催 3月 各産業分野の地域産品等のPR・販売	四万十市 (商工課、産業建設課、 農林課、企画広報課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆観光分野など産業間が 連携し、多様な外商活動 が展開されている ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、地域産品の販売促進につながっている ◆産業祭来場者数 H25:2,000人 → H31:20,000人 ◆商談会等での商談件数 H26:108件/年 → H31:150件/年	【計画の変更】 ○取組内容を「シティプロモーション推進事業」に変更 【計画の変更】 ○「広域連携による外商活動」をアクションプランに追加し、 ・連携組織体制の構築と広域連携による外商活動の推進を取組内容に記載	○商店街活性化モデル事業補助金 (事業主体:中村商工会議所) ・公家行列及び地域産品の販売PRを支援 900千円 ○四万十フェア開催 ・首都圏、中国地方で地域産品のPR、販売フェアを実施 1,394千円 ○地産外商促進 ・春・冬の味覚祭(高知大丸)、フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市)への出展ほか 499千円 ○枚方市・四万十市友好都市交流物産展 ・枚方物産展への出展 66千円 ○四万十市ふるさと応援団事業 ・関東幡多四万十会・四万十ふるさと応援団交流会での地域産品PR、販売 146千円 ○幡多広域地産外商推進協議会負担金 ・幡多6市町村で協議会を新設し、共同による外商活動を展開 50千円
○商談会等販路開拓・拡大の支援	○特産品等販売促進事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 8月 展示商談会(「外食ビジネスウィーク(東京)」に、四万十市として単独出展し、販路開拓・拡大 2月 展示商談会(「スーパーマーケットトレードショー(東京)」に県地産外商公社と連携し(県ブース)、四万十市として出展、市内加工品の販路開拓・拡大 ○四万十市地域商品販路拡大事業 (実施主体:四万十市地域商品研究会) 四万十市産振総合補助金を活用 9月 展示商談会(グルメ&ダイニングショー(東京))に出展し、市内加工品の販路開拓・拡大 ○首都圏スーパー等との商談機会の創出 10月・11月 県地産地消・外商課及び高知県食品外販協同組合との連携〔紀ノ国屋(東京)、京北(千葉)〕 ○地元素材を活用した新商品開発・販促事業 (実施主体:WANLIFE) 四万十市産振総合補助金を活用 11月 ・展示商談会:「Pet博(横浜)へ出展し、販路開拓・拡大 ・ホームページリニューアル、情報誌掲載等 ○産地視察型商談〔幡多地区〕(県との連携) 2月 バイヤー9社を県が招聘し、四万十市で開催。四万十市から5事業者が参加 ○四万十まるごと幡多フェア(岡山県津山市) 11月 幡多地域で一体となった物産販売、観光PR 岡山県中堅スーパーチェーンとの商談 ○産地視察型商談〔幡多地区〕(県との連携) 2月 バイヤー9社を県が招聘し、四万十市で開催。四万十市から5事業者が参加 ○大手居酒屋チェーンとの商談 3月～ 大手居酒屋チェーン「高知フェア」で加工品を取扱い			【再掲】 ○特産品等販売促進事業 【3,399千円】 ・首都圏での大規模商談会への出展 スーパーマーケットトレードショー 東京インターナショナルギフトショー 【再掲】 ○産地視察型商談会の開催(県との連携事業) — 【再掲】 ○県内量販店でのテストマーケティング(県との連携事業) — ○大手居酒屋チェーンや県内外の飲食店への販促 ・地元農産物を活用した加工品等を紹介し取引を進める — 【再掲】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【15,453千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流 ・サテライトショップ開設(松山市) ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体:四万十川西部漁協「あゆ市場」) ・地のモノを使ったスイーツ販売促進事業補助金 (事業主体:四万十の山間屋「山間屋」)	○シティプロモーション推進事業 10,039千円 ・コミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)の作成、プロモーション展開

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						商工業分野					
						(4)商品の販路開拓・販売促進					
						★産業間連携による外商活動					
	<p>○関東幅多四万十会(東京) 5月 地元産品及び観光のPR、販売促進</p> <p>○+-41°C物産交流連携・調整事業 (事業主体:(株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>9月 「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に出展 四万十市の商品をPR及び、道の駅「あさひかわ」 との連携に向けた協議・調整。</p> <p>○フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市) 10月 7事業者が出展し、物産販売等</p> <p>○友好・交流都市物産展(枚方市) 11月 事業者、観光協会等が出展し、物産販売、観光PR等 を推進</p> <p>○四万十まるごと幅多フェア(岡山県津山市) 11月 幅多地域で一体となった物産販売、観光PR 岡山県中堅スーパーチェーンとの商談</p>										
	<p>○シティプロモーション推進事業 地方創生先行型交付金(上乘せ交付分タイプⅡ)を活用</p> <p>・本市の本質的な魅力、独自性を見極め、国内外から本市に目を 向けられるコミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、 キャッチコピー、ロゴデザイン等)をつくり、多様なツール・媒体 (WEB、SNS等)を活用したプロモーションを展開</p> <p>7月～ 地域デザインの専門家招致 ワーキンググループを毎月開催</p> <p>3月 基本プラン策定</p>										
	(5)商品開発、販路開拓の中核となる 人材、組織の育成										
	<p>○事業者や地域グループ等の人材 育成</p> <p>○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進</p> <p>11月～2月 商品づくり(衛生管理やマーケティング等)における 基礎的知識の習得</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、 農林課)</p> <p>関係団体・組織 事業者 生産者</p>	<p>◆組織を核として、事業者 間で協働した商品開発、 販路開拓等の取組みが円 滑に推進されている</p>		<p>【再掲】 ○地域の頑張る人づくり事業補助金 (事業主体:四万十市地域商品研究会) 【1,402千円】</p> <p>・市内事業者が連携、参画し、商品開発、マーケティング、 ブランディング、クレーム対応等のスキルアップ研修を実施 (専門アドバイザーの招致、年間6講座予定)</p>						
	<p>★商品開発、販路開拓の推進組織 の設立・運営</p> <p>○四万十市地域商品販路拡大事業 (実施主体:四万十市地域商品研究会) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>9月 展示商談会(グルメ&ダイニングショー(東京))に出展し、 市内加工品の販路開拓・拡大</p> <p>11月 四万十まるごと幅多フェア(岡山県津山市)出展にかかる 事業者のとりまとめ、商品ブランディング等を支援</p>				<p>【再掲】 ○幅多広域地産外商推進協議会負担金 (事業主体:幅多広域地産外商推進協議会) 【50千円】</p> <p>・幅多6市町村で協議会を新設し、共同による外商活動を 展開</p>						

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野					
2. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信					
(1)四万十の“食”文化の磨き上げ					
<p>○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ</p> <p>○塩たたきのブランド化の推進</p> <p>【再掲】 ★地産地消認証店制度</p> <p>★ジビエ料理等の研究、普及</p>	<p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体:四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ 「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設)</p> <p>・四万十の食発信事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 3月 四万十川の幸(アユ、ウナギ、ゴリ、青のり、塩タタキなど)の伝統漁法、食べ方、料理法などの説明リーフレットの作成(インバウンド対応)</p> <p>○四万十川下流域体験型観光事業 (実施主体:(株)JUMIコーポレーション) 四万十市産振総合補助金を活用 8月～ 伝統漁法(投網漁、石ぐる漁、柴漬け漁、コロバシ漁など)と四万十川料理を食す体験型観光メニューを造成・販売(川漁師と民間事業者の連携事業)</p> <p>○四万十川グルメと西土佐火振り漁体験事業 (実施主体:四万十川火振り漁体験実行委員会) 四万十市産振総合補助金を活用 10月 火振り漁と四万十川料理を食す体験プログラムを造成・販売</p> <p>○(仮称)四万十の食研究会」庁内準備会の設立 ・四万十の食文化(地域の食材や郷土料理)の掘起し、磨き上げ</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、農林課)</p> <p>商工会議所、商工会 中村料理飲食店組合 四万十黒潮旅館組合 事業者 生産者</p>	<p>◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客など市街地への人の回遊につながっている。</p> <p>◆商店街通行者数(平日) H22～H26平均:4,725人/日 → H31:4,845人/日</p>		<p>【再掲:観光分野と共通】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 【400千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発(アドバイザー招致等)</p> <p>【再掲:観光分野と共通】 ○四万十・足摺エリア版DMOIによる広域観光推進連携事業 【600千円】 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・飲食店と連携した「旬」の食の情報提供(「旬」の食が食べられる飲食店情報のWEB・パンフレット制作)</p>
(2)地域を拠点とした食の発信					
<p>◎食の発信・普及イベント等の開催</p> <p>【再掲】 一元的な情報発信の促進</p>	<p>○食の発信・普及イベント等 4月 四万十スイーツフェスタ vol.4 四万十川びらき「春のうまいものマルシェ」 西土佐ふるさと市「春の感謝祭」 6月 四万十川花紀行「紫陽花まつり」 7月 星の郷西土佐「天の川まつり」 8月 西土佐ふるさと市「夏の感謝祭」 9月 なしし港まつり「海のビタミン大博覧会」 11月 黒尊むらまつり(四万十川花紀行「紅葉まつり」) 西土佐産業祭・うまいもの商店街 2月 四万十川流域観光物産展 3月 しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭) 四万十川花紀行「菜の花まつり」</p> <p>○シティプロモーション推進事業 地方創生先行型交付金(上乘せ交付分タイプⅡ)を活用 ・本市の本質的な魅力、独自性を見極め、国内外から本市に目を向けられるコミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)をつくり、多様なツール・媒体(WEB、SNS等)を活用したプロモーションを展開 7月～ 地域デザインの専門家招致 ワーキンググループを毎月開催 3月 基本プラン策定</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、農林課、企画広報課)</p> <p>商工会議所、商工会 中村菓子パン工業組合 中村料理飲食店組合 観光協会 四万十市観光振興 連絡協議会 四万十市体験型 観光受入研究会 西土佐観光推進 協議会 四万十黒潮旅館組合 事業者</p>	<p>◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客など市街地への人の回遊につながっている。</p> <p>◆産業祭来場者数 H25:2,000人 → H31:20,000人</p>	<p>【計画の変更】 ○取組内容を「シティプロモーション推進事業」に変更</p>	<p>【再掲:観光分野と共通】 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金 【1,450千円】 (事業主体:四万十市観光振興連絡協議会) ・花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催、検証等</p> <p>【再掲:観光分野と共通】 ○四万十川花紀行事業費補助金 【180千円】 (事業主体:四万十市観光協会) ・花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催</p> <p>○各団体等による食の発信・普及イベント等の開催 —</p> <p>【再掲】 ○シティプロモーション推進事業 【10,039千円】 ・コミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)の作成、プロモーション展開</p>

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						商工業分野					
						(3)都市圏等を拠点とした食の発信					
						【再掲】					
★産業間連携による外商活動 ★県外を拠点とした店舗等による外商活動	○関東幅多四万十会(東京) 5月 地元産品及び観光のPR、販売促進 ○+-41℃物産交流連携・調整事業 (事業主体:(株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用 9月 「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に出展 四万十市の産品をPR及び、道の駅「あさひかわ」 との連携に向けた協議・調整。 ○フェスティバル土佐ふるさとまつり(高知市) 10月 7事業者が出展し、物産販売等 ○友好・交流都市物産展(枚方市) 11月 事業者、観光協会等が出展し、物産販売、観光PR等 を推進 ○四万十まるごと幅多フェア(岡山県津山市) 11月 幅多地域で一体となった物産販売、観光PR 岡山県中堅スーパーチェーンとの商談	四万十市 (商工課、関係課) 商工会議所、商工会 観光協会 地域商品研究会 事業者 生産者	◆観光分野など産業間が 連携し、多様な外商活動 が展開されている	【計画の変更】 ○「広域連携による外商活動」をア クションプランに追加し、 ・連携組織体制の構築と広域連携 による外商活動の推進 を取組内容に記載 【計画の変更】 ○「道の駅「よって西土佐」サテライト ショップ開設」を取組内容に追加	【再掲】 ○四万十フェア開催 【1,394千円】 ・首都圏、中国地方で地域産品のPR、販売フェアを実施 【再掲】 ○地産外商促進 【499千円】 ・春・冬の味覚祭(高知大丸)、フェスティバル土佐ふるさと まつり(高知市)への出展ほか 【再掲】 ○枚方市・四万十市友好都市交流物産展 【66千円】 ・枚方物産展への出展 【再掲】 ○四万十市ふるさと応援団事業 【146千円】 ・関東幅多四万十会・四万十ふるさと応援団交流会での 地域産品PR、販売 【再掲】 ○幅多広域地産外商推進協議会負担金 【50千円】 ・幅多6市町村で協議会を新設し、共同による外商活動を 展開 【再掲】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 【15,453千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・サテライトショップ開設(松山市) ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幅多地域の道の駅、+-41℃連携の 旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的 交流 ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体:四万十川西部漁協「あゆ市場」) ・地のモノを使ったスイーツ販売促進事業補助金 (事業主体:四万十の山間屋「山間屋」)						

分野		平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要																															
戦略の柱																																					
施策																																					
アクションプラン 主要内容																																					
商工業分野																																					
3. 地域防災対策における建設事業の推進																																					
(1)施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保																																					
○施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保	<p>○地域づくり支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設技術者の確保(新規雇用)・育成(技能習得) 民間の建設関係事業者3社:7名新規雇用 (講師招致による現場実践講習、各種技能講習・セミナー受講による資格取得) <p>○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 (3月補正予算時点の年間予算額)</p> <table border="1"> <tr><td>・市道(橋梁)長寿命化工事</td><td>73,000千円</td></tr> <tr><td>・右山配水ポンプ場長寿命化工事</td><td>60,000千円</td></tr> <tr><td>・防災拠点施設防災広場工事</td><td>73,000千円</td></tr> <tr><td>・八束保育所移転用地造成工事</td><td>39,658千円</td></tr> <tr><td>・防災活動拠点施設建築工事</td><td>37,515千円</td></tr> <tr><td>・防災備蓄倉庫建築工事</td><td>8,000千円</td></tr> <tr><td>・避難所等自家発電施設整備工事</td><td>18,000千円</td></tr> <tr><td>・臨時ヘリポート整備工事</td><td>14,126千円</td></tr> <tr><td>・津波避難路整備工事</td><td>188,000千円</td></tr> <tr><td>・小中学校屋内運動場改築工事</td><td>1,000,322千円</td></tr> <tr><td>・具同小屋内運動場非構造部材耐震化工事</td><td>26,742千円</td></tr> <tr><td>・同報系防災行政無線整備工事</td><td>310,000千円</td></tr> <tr><td>・住宅等耐震改修助成事業</td><td>55,975千円</td></tr> <tr><td>・老朽化住宅除去助成事業</td><td>30,000千円</td></tr> <tr><td>・水道管耐震化敷設替事業</td><td>63,000千円</td></tr> <tr><td colspan="2">計 約19億9千7百万円</td></tr> </table>	・市道(橋梁)長寿命化工事	73,000千円	・右山配水ポンプ場長寿命化工事	60,000千円	・防災拠点施設防災広場工事	73,000千円	・八束保育所移転用地造成工事	39,658千円	・防災活動拠点施設建築工事	37,515千円	・防災備蓄倉庫建築工事	8,000千円	・避難所等自家発電施設整備工事	18,000千円	・臨時ヘリポート整備工事	14,126千円	・津波避難路整備工事	188,000千円	・小中学校屋内運動場改築工事	1,000,322千円	・具同小屋内運動場非構造部材耐震化工事	26,742千円	・同報系防災行政無線整備工事	310,000千円	・住宅等耐震改修助成事業	55,975千円	・老朽化住宅除去助成事業	30,000千円	・水道管耐震化敷設替事業	63,000千円	計 約19億9千7百万円		四万十市 (地震防災課ほか)	<ul style="list-style-type: none"> ◆建設業を支える若年層の技術者が増加している ◆施設の長寿命化・南海地震対策 H31:1強化 ◆住宅耐震化率 H26:64.1% → H31:73.5% 		<p>○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 1,573,248千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 市道(橋梁)長寿命化・避難路等整備工事 四万十川大橋耐震化整備(県営事業負担金) 津波避難路災害復旧工事 右山排水ポンプ場長寿命化工事 臨時ヘリポート整備工事 八束地区防災拠点基地防災広場工事 東山地区防災活動拠点施設建築工事 具同地区防災活動拠点施設建築工事 八束地区防災コミュニティセンター建築工事 八束地区防災拠点施設耐震性給水施設整備工事 中村中学校屋内運動場改築工事 市民ふれあいセンター耐震化工事 住宅等耐震改修助成事業 老朽住宅除去助成事業 耐震性貯留槽設置工事 水道管耐震化敷設替工事
・市道(橋梁)長寿命化工事	73,000千円																																				
・右山配水ポンプ場長寿命化工事	60,000千円																																				
・防災拠点施設防災広場工事	73,000千円																																				
・八束保育所移転用地造成工事	39,658千円																																				
・防災活動拠点施設建築工事	37,515千円																																				
・防災備蓄倉庫建築工事	8,000千円																																				
・避難所等自家発電施設整備工事	18,000千円																																				
・臨時ヘリポート整備工事	14,126千円																																				
・津波避難路整備工事	188,000千円																																				
・小中学校屋内運動場改築工事	1,000,322千円																																				
・具同小屋内運動場非構造部材耐震化工事	26,742千円																																				
・同報系防災行政無線整備工事	310,000千円																																				
・住宅等耐震改修助成事業	55,975千円																																				
・老朽化住宅除去助成事業	30,000千円																																				
・水道管耐震化敷設替事業	63,000千円																																				
計 約19億9千7百万円																																					
2 中心市街地・商店街の活性化																																					
1. 中心市街地、商店街の魅力・賑わいづくり																																					
(1)回遊性と集客力向上のための拠点づくり																																					
★土豫銀行跡地活用による拠点整備	<p>○土豫銀行跡地利活用意見交換会 9月～ 市、関係団体(商店街振興組合、商工会議所、青年会議所)アドバイザー(中小企業基盤整備機構)を招聘し開催</p> <p>○商店街通行量調査 12月 商店街振興組合連合会に加盟する商店街において実施</p>	四万十市 (商工課、産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆商店街通行者数(平日) H22～H26平均:4,725人/日 → H31:4,845人/日 ◆道の駅「よって西土佐」 入込客数 H31:13万人 	【計画の変更】 ○「東下町会館の改築による拠点機能の強化」をアクションプランに追加	○旧土豫銀行跡地利活用調査研究 100千円 ・具体的な事業計画の策定に向け、事業内容、事業実施主体、国・県等の支援制度等の調査研究																																
○物産館サンリバー四万十との連携	○よさこい四万十 9月 商店街と物産館サンリバー四万十などを会場として開催され中心市街地の賑わい、回遊性を創出																																				
◎いちじょこさん市場(食の交流拠点)の機能強化	○まちづくり四万十株主総会 7月 いちじょこさん市場の今後の事業展開等について検討 1月～ ・惣菜、弁当部門の販売強化 ・イベントなどを活用した積極的な販促活動の推進																																				

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						商工業分野					
						(3)日常の賑わいにつながる仕組みづくり					
						○イベント開催等活性化の仕組みづくり					
	<p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体:四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ 「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設) 6月～ 「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」 との宿泊セットプラン</p> <p>○商店街活性化モデル事業 5月 公家行列及び地域産品の販促PRを支援</p> <p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)の造成・販売 6月～ 着物レンタル(呉服店と連携)による小京都中村の 「街歩き」体験メニュー</p> <p>○商店街等活性化事業 7月 ・活性化イベント開催(天神橋、東下町、一条通) ・とことこ一条日和</p> <p>○よさこい四万十 9月 商店街と物産館サンリバー四万十などを会場として 開催され中心市街地の賑わい、回遊性を創出</p> <p>○the出張なかこう祭(天神橋商店街との連携) 11月 中村高校が商店街において、部活動で製作した商品 を販売</p> <p>○小京都ジュニア駅伝 2月 市内をはじめ県内外から約30チームが参加</p> <p>○「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」と連動した 商店街の魅力・賑わいづくり 3月 ・天神橋商店街 ワンコインイベント、フリーマーケット等 ・一条通商店街 路上販売、街なか博物館等 ・東下町商店街 稲荷大祭:福餅・いなり寿司振舞い</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、 観光課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合</p>	<p>◆商店街通行者数(平日) H22～H26平均:4,725人/日 → H31:4,845人/日</p> <p>◆商店街空き店舗対策 補助件数 H26:2件/年 → H31:5件/年</p>		<p>【再掲】 ○商店街活性化モデル事業補助金 【900千円】 (事業主体:中村商工会議所) ・公家行列及び地域産品の販売PRを支援</p> <p>○商店街活性化補助金 500千円 (事業主体:各商店街振興組合) ・中心市街地活性化に資する事業(イベント(夜市)など) への支援</p> <p>○(仮称)しまんと商業振興支援事業補助金 265千円 (事業主体:各商店街振興組合) ・天神橋ワンコイン商店街ツアー ・一条通まちなか博物館</p> <p>○小京都四万十ジュニア駅伝大会 100千円</p> <p>○(仮称)チャレンジショップ事業費補助金 3,060千円 (事業主体:天神橋商店街振興組合) ・天神橋チャレンジショップTJB</p> <p>○空き店舗対策事業費補助金 1,500千円 ・空き店舗入居者に対する店舗改修費への支援</p> <p>【再掲:観光分野と共通】 ○インバウンド対策事業補助金 【900千円】 (事業主体:四万十市観光協会) ・「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」の磨き上げ</p>						
	<p>○個店のサービス向上</p> <p>○プレミアム付き商品券の発行 地域消費喚起・生活支援型交付金を活用 7月～11月 ・発行額3億7200万円(プレミアム率24%) ・登録事業者499件)</p> <p>○商店街振興組合商品券の発行 四万十市商店街振興組合連合会独自での商品券の発行を行った。</p> <p>○天神橋商店街ワークショップの開催 4月～ 商店街活性化を目指す「まちあるきマップ」の作成</p>										
	<p>★個性が光る店舗の集積</p> <p>○天神橋商店街チャレンジショップとの連携 4月～9月 商店街をはじめ関係機関(市、商工会議所等)が 連携し個性的な3店舗が創業</p> <p>○空き店舗等情報発信の強化、創業支援 10月～ チャレンジショップとの連携:2店舗募集</p>										

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野									
	(4)空き店舗対策								
	○空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供	市、商店街振興組合、関係団体等で連携した空き店舗情報の提供及び一元的に集積・発信できる仕組みづくりの検討	四万十市 (商工課、産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街空き店舗対策補助件数 H26:2件/年 → H31:5件/年					【再掲】 ○空き店舗対策事業費補助金 【1,500千円】 ・空き店舗入居者に対する店舗改修費への支援
	◎空き店舗改修等の支援	○空き店舗対策事業 ・11月 空き店舗改修等の支援(天神橋2件・大橋通1件) ・12月 空き店舗対策事業(天神橋1件) ・1月 空き店舗対策事業(駅前通1件)							
	2. 創業や経営革新への支援強化								
	(1)経営指導などサポート体制の強化								
	★経営指導などサポート体制の強化	○経営発達支援計画の策定(商工会・商工会議所) 9月 企業経営や創業をトータルでサポートするための支援体制を整備 1月 市、関係機関(商工会、商工会議所、金融機関、信用保証協会等)と連携して創業者を総合的に支援するために創業支援計画を策定 ○各種スキルアップ研修等への参加 随時 基礎・応用能力研修会等への職員の受講を促進	四万十市 (商工課、産業建設課) 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H26:8件/年 → H31:45件/年				○商工業者経営改善普及事業等補助金 3,003千円 (事業主体:中村商工会議所、西土佐商工会) ・商工会議所、商工会で策定された「経営発達支援計画」、市が策定した「創業支援計画」に基づき、市、商工会議所・商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート及びワンストップ窓口化 ○中小企業振興資金貸付金等 25,100千円	
	(2)創業や経営革新に意欲ある事業者(人材)の育成、スキルアップ								
	○事業者の育成、スキルアップ	○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進 11月～2月 商品づくり(衛生管理やマーケティング等)における基礎的知識の習得 ○天神橋商店街チャレンジショップとの連携 4月～9月 商店街をはじめ関係機関(市、商工会議所等)が連携し個性的な3店舗が創業 ○空き店舗等情報発信の強化、創業支援 10月～ チャレンジショップとの連携:2店舗募集 ○経営発達支援計画の策定(商工会・商工会議所) 9月 企業経営や創業をトータルでサポートするための支援体制を整備 ○四万十市創業支援計画の策定 1月 市、関係機関(商工会、商工会議所、金融機関、信用保証協会等)と連携して創業者を総合的に支援するために創業支援計画を策定 ○商工会議所等支援機関が行う人材育成事業との連携 3月 創業支援、販路開拓セミナーの開催	四万十市 (商工課、産業建設課) 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H26:8件/年 → H31:45件/年			【再掲】 ○商工業者経営改善普及事業等補助金 【3,003千円】 (事業主体:中村商工会議所、西土佐商工会) ・商工会議所、商工会で策定された「経営発達支援計画」、市が策定した「創業支援計画」に基づき、市、商工会議所・商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート及びワンストップ窓口化 【再掲】 ○地域の頑張る人づくり事業補助金 【1,402千円】 (事業主体:四万十市地域商品研究会) ・市内事業者が連携、参画し、商品開発、マーケティング、ブランディング、クレーム対応等のスキルアップ研修を実施(専門アドバイザーの招致、年間6講座予定) 【再掲】 ○(仮称)チャレンジショップ事業費補助金 【3,060千円】 (事業主体:天神橋商店街振興組合) ・天神橋チャレンジショップTJB 【再掲】 ○空き店舗対策事業費補助金 【1,500千円】 ・空き店舗入居者に対する店舗改修費への支援 ○県、商工関連団体などが開催する各種スキルアップ研修会等への参加促進		

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野						
3 中山間地域の商業機能の確保						
1. 小さな(田舎)ビジネスの推進						
(1)集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成						
【再掲】 ◎事業者、地域等の提案を拾い上げる体制強化	<p>○地域のグループ(三ツ又・大屋敷)との意見交換会 7月・8月 地域の情報発信や商品開発等に向けた取組について総合的な支援策等を検討 9月～1月 課題の整理、次年度計画等の策定支援</p> <p>○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体:株式会社西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・商品開発等コーディネート 7月～ 商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等</p> <p>○四万十市地域商品研究会との連携 4月～ 毎月開催 ・参加事業者間及び官民の情報共有と連携の促進</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、農林水産課、企画広報課、地域企画課)</p> <p>地域おこし協力隊 地域グループ 事業者 生産者</p>	<p>◆事業者や地域からの提案、相談に対してワンストップで対応できる体制が充実している</p> <p>◆集落単位やグループの「小さなビジネス」展開など、地域連携や活性化の動きが広がっている</p>		<p>【再掲】 ○地域おこし協力隊事業 ・6名配置</p> <p>○地域おこし協力隊起業補助金 ・地域おこし協力隊修了者の起業への支援</p> <p>○地域づくり支援事業補助金 ・西土佐口屋内地域づくり拠点施設改修 農家レストラン「しゃえんじり」施設改修 ・「三ツ又廃村を免れ隊」地域活性化 HP開設、ネット販売、店舗の開設</p> <p>【再掲】 ○地域商社「株式会社西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・食品加工開発等支援事業費補助金 集落やグループ、個人事業者が行う小さなビジネスを支援</p>	<p>【23,409千円】</p> <p>3,000千円</p> <p>3,552千円</p> <p>【450千円】</p>
◎地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発	<p>○豆腐等加工製造施設の整備(実施主体:中組絆の会) 4月 地域で生産される農産物(大豆等)を活用した加工品の製造等6次産業化を推進[ふわふわ豆腐、木綿豆腐]</p> <p>○地域のグループ(三ツ又・大屋敷)との意見交換会 7月・8月 地域の情報発信や商品開発等に向けた取組について総合的な支援策等を検討 9月～1月 課題の整理、次年度計画等の策定支援</p> <p>○道の駅「よって西土佐」商品開発等コーディネート事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 7月～ 商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等</p>					
(2)地域の人、もの、コトの発信						
◎地域の人、もの、コトの発信	<p>○シティプロモーション推進事業 地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプⅡ)を活用 ・本市の本質的な魅力、独自性を見極め、国内外から本市に目を向けられるコミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)をつくり、多様なツール・媒体(WEB、SNS等)を活用したプロモーションを展開 7月～9月 地域デザインの専門家招致 ワーキンググループを毎月開催</p>	<p>四万十市 (商工課、産業建設課、企画広報課)</p>	<p>◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、地域の活性化につながっている</p>		<p>【再掲】 ○シティプロモーション推進事業 ・コミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)の作成、プロモーション展開</p>	<p>【10,039千円】</p>

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
商工業分野					
(3)ビジネスの拠点づくり					
◎拠点ビジネスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○集落活動センター事業(実施主体:大宮集落活動センター) 4月～ 地域資源や特性を活かした産業づくり 伐採材活用、野菜集荷、特産品加工、軽食サービス等 ○豆腐等加工製造施設の整備(実施主体:中組絆の会) 4月 地域で生産される農産物(大豆等)を活用した加工品の製造等6次産業化を推進[ふわふわ豆腐、木綿豆腐] ○地域のグループ(三ツ又・大屋敷)との意見交換会 7月・8月 地域の情報発信や商品開発等に向けた取組について総合的な支援策等を検討 9月～1月 課題の整理、次年度計画等の策定支援 ○北川村ゆず王国(株)「四万十加工所」開設 (旧西ヶ方小学校旧給食棟を活用) ・JA高知はたのゆず搾汁残渣(皮)のトリミング加工(一次加工) 従業員数:5名 	四万十市 (商工課、産業建設課、農林水産課、企画広報課、地域企画課) 集落活動センター 集落組織・グループ 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆集落単位やグループの「小さなビジネス」展開など、地域連携や活性化の動きが広がっている ◆農林水産物等直販所販売額 H26:11億5,600万円 → H31:13億円 ◆道の駅「よって西土佐」入込客数 H31:13万人 	【計画の変更】 ○アクションプラン名を「道の駅「よって西土佐」の整備・機能強化へ変更し、道の駅「よって西土佐」を拠点に運営主体「(株)西土佐ふるさと市」の地域商社としての機能を強化に取組内容を変更	【再掲】 ○地域おこし協力隊起業補助金 【3,000千円】 ・地域おこし協力隊修了者の起業への支援 【再掲】 ○地域づくり支援事業補助金 【3,552千円】 ・西土佐口屋内地域づくり拠点施設改修 農家レストラン「しゃえんじり」施設改修 ・「三ツ又廃村を免れ隊」地域活性化 HP開設、ネット販売、店舗の開設 ○農林水産物直販所「安心係」養成講習会への参加 ・情報発信、農産物管理、農薬適正使用、食品表示、衛生管理講習 【再掲】 ○地域おこし協力隊事業 【7,845千円】 ・道の駅配置:2名 【再掲】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業(道の駅「よって西土佐」関連) 【46,475千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・地産地消推進 農産物栽培計画指導、ミニレンタルハウス補助、集出荷支援、給食施設等への供給 ・食品加工開発、ブランド化等 テストマーケティング、試食会、デザイナー招致等による商品の磨き上げ、新商品開発、ブランディング ・食品加工開発等支援事業費補助金 集落やグループ、個人事業者が行う小さなビジネスを支援 ・百貨店バイヤー等招致研修会 ・地域住民の居場所づくり(図書に親しむフェア開催ほか) ・道の駅連携による販売促進 R381号間の道の駅、幡多地域の道の駅、±41℃連携の旭川市の道の駅と連携したイベント等の開催、人的・物的交流 ・サテライトショップ開設(松山市) ・外商活動促進 PV作成、都市圏での物産展、商談会等への出展ほか ・クラウドファンディングを活用したファンづくり(販路開拓) ・水産物販売促進事業補助金 (事業主体:四万十川西部漁協「あゆ市場」) ・地のモノを使ったスイーツ販売促進事業補助金 (事業主体:四万十の山問屋「山問屋」) ・広域観光拠点機能 デジタルサイネージ導入 おもてなし意識の醸成とインバウンド対応のスキルアップ研修
◎直販所の拠点機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○農林水産物直販所「安心係」養成講習会開催 7月 情報発信、農産物管理、農薬適正使用、食品表示、衛生管理講習 ○道の駅地域産品開発等特別対策事業 9月～ 加工食品等の開発支援及び農産物出荷体制に向けた施設整備等の支援(ミニレンタルハウスの整備:2棟) 				
【再掲】 ★(仮称)西土佐道の駅整備	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅「よって西土佐」施設整備 8月 建築工事着工 3月 完成(プレオープン) ○道の駅開設に向けた経営・販売戦略強化事業 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・「道の駅戦略会議」の設立 構成:市・(株)西土佐ふるさと市・あゆ市場・ストローベイル山問屋・(株)サコダデザインなど 5月～ 道の駅開業までの課題、開業後の運営等について週2回のペースで協議を継続 10月～ 開業PR活動、県内外への積極的な営業活動の強化 WEBでの発信、クラウドファンディングの活用等による道の駅「よって西土佐」のファンづくりを実施 ・商品開発等コーディネイト 7月～ ・商品企画・開発ワークショップの開催 試食会等による有望商品のピックアップ、既存商品の磨き上げ、パッケージデザイン等 ○±41℃物産交流連携・調整事業 (実施主体:(株)西土佐ふるさと市) 四万十市産振総合補助金を活用 9月 ・「北の恵み食べマルシェ2015」(旭川市)に出展 ・四万十市の商品をPR及び、道の駅「あさひかわ」との連携に向けた協議・調整。 ○道の駅地域産品開発等特別対策事業 10月～ 道の駅への出品する加工事業者の加工品開発等への支援 ○(株)西土佐ふるさと市加工部会の立ち上げ 10月～ 加工技術、生産性、衛生管理などの向上にむけた検討 				

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						商工業分野					
						4 企業誘致					
						1. 情報通信関連産業の誘致促進					
(1)誘致に向けたリサーチの徹底											
★誘致にかかるリサーチ	1月～ 企業ニーズ等の情報収集、誘致対象業種の絞り込み等効果的効果的な誘致活動に向けた協議、検討(県及び関係団体等との連携)	四万十市(商工課)	◆シェアオフィスへの誘致企業数 H31:2社		○企業誘致対策 ・県と連携した誘致企業の情報収集、アプローチ 60千円						
(2)誘致活動の推進											
◎特色ある誘致情報の発信	1月～ 誘致情報に有効な条件、素材等の整理及び効果的な発信手法等の協議、検討	四万十市(商工課、農林課)	◆シェアオフィスへの誘致企業数 H31:2社	○県と連携した次世代施設園芸への企業参入(企業誘致)を取組み内容に追記	【再掲】 ○企業誘致対策 ・県と連携した誘致企業の情報収集、アプローチ 【60千円】						
★支援メニューの創設・受入体制づくり	○誘致企業支援事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ ・コンタクトセンターへの支援(人件費) ・コンタクトセンターへの支援(システム導入)		◆既誘致企業での雇用者数 H31:20名増		○コールセンター等立地促進事業費補助金 ・誘致企業(E.A高知コンタクトセンター)への支援 21,300千円						
◎県と連動した誘致活動の推進	6月～8月 誘致対象企業(ICT関連企業(東京))へのアプローチ 県と連携し、市内への支社開設 7月～ 北川村ゆず王国(株)「四万十加工所」操業開始(旧西ヶ方小学校旧給食棟を活用) ・JA高知はたのゆず搾汁残渣(皮)のトリミング加工(一次加工) 従業員数:5名 10月～ 県との連携を強化し、蓄積された情報やネットワークを活用しながら立地希望企業へのアプローチを効果的に推進(次世代施設園芸等への企業誘致など)		◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H31:1社								
(3)遊休施設等を活用したシェアオフィス等の整備											
★シェアオフィス等の整備	1月～ シェアオフィス等の整備にかかる調査・研究活動等 具体的取組の検討	四万十市(商工課)	◆シェアオフィスへの誘致企業数 H31:2社		○市内の遊休公共施設等についてシェアオフィスの立地可能性調査を実施 -						

28年度当初予算額 【商工業分野】

1,738,412千円

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート【平成27年度(下半期)】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
観光分野					
1 滞在型の観光地づくり					
1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり					
(1)観光リサーチの徹底					
◎観光マーケティングリサーチ ★四万十市のどこが好きキャンペーンの実施	○観光動向等アンケート調査 4月～ 観光案内所(観光協会)窓口で外国人観光客へのアンケート調査 5月 H26の観光動向調査の結果集計 (県において調査地点(四万十川観光開発遊覧船乗り場)で観光動向アンケート調査) 5月(GW)・8月(お盆) 佐田沈下橋で観光動向アンケート調査 ○県外旅行者、学校等への誘致活動(観光ニーズ調査) 5月 関東方面 7月 広島、福岡 11月 関西方面 ○提灯台を活用した滞在型観光商品造成 (中村提灯台保存会) 四万十市産振総合補助金を活用 8月 枚方まつりへ参加し、「提灯台」を活かした観光商品造成に向けアンケート調査実施	四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆マーケットインの視点に立った、満足度、リピート率の高い滞在型の観光商品づくりが進んでいる		○観光案内所運営補助金(事業主体:四万十市観光協会) 7,400千円 ・観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向等アンケート調査 (観光案内所運営に要する補助金を含む) ○観光客誘致促進事業補助金 864千円 (事業主体:四万十市観光協会) ・誘致活動とあわせた観光ニーズ調査 国内(首都圏・関西圏)・海外(香港・台湾) ○観光客誘致宣伝活動 690千円 ・誘致活動とあわせた観光ニーズ調査 国内(関東・関西・中四国・九州)、海外(台湾) 【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【370千円】 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・継続的なニーズ調査、各種データの収集・分析
(2)今ある観光商品の磨き上げ					
◎観光商品としての検証と磨き上げ	○四万十市観光振興連絡会議 5月～ 「四万十川花紀行事業」について各部会で検証 ○四万十市体験型観光受入研究会 5月 体験プログラムの検証等 10月 体験プログラムの検証等 11月 田舎暮らし体験(民泊)受入家庭募集(11月広報掲載) H27現在体験メニュー数:32プログラム ※幡多広域観光協議会取り扱い分 ○西土佐観光推進協議会 5月・6月・9月 観光プログラムの検証等	四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会	◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している		○インバウンド対策事業補助金 900千円 (事業主体:四万十市観光協会) ・「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」の磨き上げ ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金 1,450千円 (事業主体:四万十市観光振興連絡会議) ・花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催、検証等 ○西土佐観光推進協議会 ・観光プログラムの検証等 ○四万十市体験型観光受入研究会 ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか
○専門家を活用した観光商品の磨き上げ	○体験メニューの磨き上げ・開発、受入組織の育成 9月 アドバイザー(県観光アドバイザー)招致 ・滞在型観光メニュー開発ワークショップ開催 ～サイクリングによる観光商品づくり ほか～ 11月 アドバイザー(県観光アドバイザー)招致 ・「第12回全国ほんもの体験フォーラムin高知」開催に向けた体験型観光受入組織の育成、体験メニューのブラッシュアップ等				○食の魅力を活かした地域振興事業 400千円 地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発 (アドバイザー招致等) 【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 【444千円】 ・着地型旅行商品の造成、磨き上げを行う団体等への支援 【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【2,222千円】 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・客層に合ったオーダーメイド型の周遊プランの造成 (旅行会社招致によるモニターツアー、PR)

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
観光分野					
(3)新たな観光商品づくり ◎観光商品づくりワークショップの開催 ★異業種交流会の開催 ◎地域の産業と連携した新たな観光商品づくり ★閑散期のメニュー開発	<p>○体験メニューの磨き上げ・開発 9月 アドバイザー(県観光アドバイザー)招致 ・滞在型観光メニュー開発ワークショップ開催 ～サイクリングによる観光商品づくり ほか～</p> <p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体:四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ ・「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設) ・四万十周遊バス(二次交通)との宿泊セットプラン ・「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」 との宿泊セットプラン ・「ペットホテル」との宿泊セットプラン</p> <p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)の造成・販売 6月～ 着物レンタル(呉服店と連携)による小京都中村の 「街歩き」体験メニュー</p> <p>○四万十川下流域体験型観光事業 (実施主体:(株)JUMIコーポレーション) 四万十市産振総合補助金を活用 8月～ 伝統漁法(投網漁、石ぐる漁、柴漬け漁、コロバシ漁 など)と四万十川料理を食す体験型観光メニューを 造成・販売(川漁師と民間事業者の連携事業)</p> <p>○提灯台を活用した滞在型観光商品造成 (中村提灯台保存会) 四万十市産振総合補助金を活用 8月 枚方まつりへ参加し、「提灯台」を活かした観光商品造成に 向けアンケート調査実施</p> <p>○四万十川グルメと西土佐火振り漁体験事業 (実施主体:四万十川火振り漁体験実行委員会) 四万十市産振総合補助金を活用 10月 火振り漁と四万十川料理を食す体験プログラムを 造成・販売</p>	<p>四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市観光振興 連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型 観光受入研究会</p>	<p>◆体験・宿泊等の プラン造成件数 H31:10アイテム</p>		<p>【再掲】 ○四万十市体験型観光受入研究会 ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか</p> <p>【再掲】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 地方創生加速化交付金を活用 【400千円】 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文 化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発 (アドバイザー招致等)</p> <p>【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 ・着地型旅行商品の造成、磨き上げを行う団体等への支援 【444千円】</p> <p>【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOIによる広域観光推進連携事業 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 【3,733千円】 ・地域ならではの魅力的な教育旅行プログラムの造成 (漁業や林業、環境学習、インドアのプログラム開発) ・自主企画体験商品の開発 (スタンドアップパドルボート、レンタサイクル・ナビ システム購入)</p>

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						観光分野					
						(4)食の魅力を活かした観光振興					
						〇食の魅力を活かした観光地づくり					
	<p>〇インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体:四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ 「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設) ・四万十の食発信事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 3月 四万十川の幸(アユ、ウナギ、ゴリ、青のり、塩タタキなど)の伝統漁法、食べ方、料理法などの説明リーフレットの作成(インバウンド対応) <p>〇四万十川下流域体験型観光事業 (実施主体:(株)JUMIコーポレーション) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>8月～ 伝統漁法(投網漁、石ぐる漁、柴漬け漁、コロボシ漁など)と四万十川料理を食す体験型観光メニューを造成・販売(川漁師と民間事業者の連携事業)</p> <p>〇四万十川グルメと西土佐火振り漁体験事業 (実施主体:四万十川火振り漁体験実行委員会) 四万十市産振総合補助金を活用</p> <p>10月 火振り漁と四万十川料理を食す体験プログラムを造成・販売</p>	<p>四万十市(観光課) 観光協会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会 四万十黒潮旅館組合 商工会議所、商工会 中村料理飲食店組合 中村菓子パン工業組合</p>	<p>◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や観光消費額の拡大につながっている。</p> <p>◆一人当たりの観光消費額 H24:14,700円 → H31:18,150円</p> <p>◆産業祭来場者数 H25:2,000人 → H31:20,000人</p>		<p>【再掲】 〇食の魅力を活かした地域振興事業 【400千円】 地方創生加速化交付金を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発(アドバイザー招致等) <p>【再掲】 〇四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【600千円】 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店と連携した「旬」の食の情報提供(「旬」の食が食べられる飲食店情報のWEB・パンフレット制作) <p>【再掲】 〇四万十川を活用した魅力向上事業補助金 【1,450千円】 (事業主体:四万十市観光振興連絡会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催、検証等 <p>〇四万十川花紀行事業費補助金 180千円 (事業主体:四万十市観光協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花と食をテーマとした観光イベント(四万十川花紀行等)の開催 <p>〇各団体等による食の発信・普及イベント等の開催 —</p>						
	<p>〇食の発信・普及イベント等の開催</p> <p>〇食の発信・普及イベント等</p> <p>4月 四万十スイーツフェスタ vol.4 四万十川びらき「春のうまいものマルシェ」 西土佐ふるさと市「春の感謝祭」</p> <p>6月 四万十川花紀行「紫陽花まつり」</p> <p>7月 星の郷西土佐「天の川まつり」</p> <p>8月 西土佐ふるさと市「夏の感謝祭」</p> <p>9月 なしし港まつり「海のビタミン大博覧会」</p> <p>11月 黒尊むらまつり(四万十川花紀行「紅葉まつり」) 西土佐産業祭・うまいもの商店街</p> <p>2月 四万十川流域観光物産展</p> <p>3月 しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭) 四万十川花紀行「菜の花まつり」</p>										

分野	戦略の柱	平成27年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
観光分野						
2. 広域連携による周遊観光の推進						
(1) 広域連携による周遊観光の推進						
○周遊観光プランの造成・発信及び販売 ○広域連携によるキャンペーンの展開	○幡多広域観光協議会 ・「はた博」で造成した各種イベント、体験メニューをブラッシュアップし、「楽しまん！はた旅」キャンペーンの展開 ・「はた飯(はたグルメ食べ歩き)」の情報発信 ・「四万十・足摺エリア誘客促進連携事業」 地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプI)を活用 ・一般旅行推進事業 旅行商品の造成・磨き上げ、旅行素材集の制作 モニターツアー・誘客キャンペーン 道の駅へデジタルサイネージ導入 体験型旅行商品等の動画制作・配信 ほか ・スポーツツーリズム推進 実態調査、誘致戦略の策定、ホームページ整備 ・国際観光推進 実態調査、誘致戦略の策定、広域ガイドブックの多言語化 ・体制強化・収益事業 ビックデータ・ニーズ等分析動態調査 キャラクターグッズのテストマーケティング ○予土県境地域連携実行委員会 3月～5月 「サイクルトレイン四万十号」運行 9月 「四万十・南予横断2リバービューライド」開催 ほか 9月～11月 「サイクルトレイン四万十号」運行 ○四万十川流域市町村観光振興連絡会 ・四万十川流域観光パンフレット増刷 2月 「四万十川流域観光物産展」開催 ○四万十・足摺無限大チャレンジライド (実施主体:実行委員会) ○全国体験ほんものフォーラムin高知 3月 全体フォーラム (幡多広域または高知中央域で調整中) 分科会・体験ツアー (幡多広域、安芸広域、嶺北広域、高幡広域)	幡多広域観光協議会 予土県境地域連携 実行委員会 四万十川流域市町村 観光振興連絡会 四国西南地域 観光連絡協議会	◆様々な広域連携の圏域(枠組み)の目的、特色を活かした周遊観光プランの造成、情報発信・販売が進み、多様な選択肢を備えた観光エリアとして、幅広い観光客が訪れてい ◆広域における 一般観光客数 H31:53,750人増 ◆広域における スポーツ客数 H31:10,000人増 ◆広域における 外国人延べ宿泊数 H31:13,300人泊 ◆広域組織における5つの機能 ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 H31:1強化	○幡多広域観光協議会負担金 9,259千円 ・着地型旅行商品の造成、磨き上げを行う団体等への支援 ・体験事業者、田舎暮らし体験受入家庭を対象とした研修会の開催 ・全国の体験型観光事業者とのネットワーク構築 ・外部研修会参加による職員のスキルアップ ・管理運営費 ほか ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 16,296千円 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・継続的なニーズ調査、各種データの収集・分析 ・客層に合ったオーダーメイド型の周遊プランの造成(旅行会社招致によるモニターツアー、PR) ・地域ならではの魅力的な教育旅行プログラムの造成(漁業や林業、環境学習、インドアのプログラム開発) ・自主企画体験商品の開発(スタンドアップパドルボード、レンタサイクル・ナビシステム購入) ・飲食店と連携した「旬」の食の情報提供(「旬」の食が食べられる飲食店情報のWEB・パンフレット制作) ・教育旅行誘致活動プロモーションツール見直し(パンフレット制作) ・体験事業者と連携した「はた旅体験商品」の認知度向上、キャンペーン展開(体験予約サイトの広報、統一した表示物製作) ・インターネットや雑誌、新聞等を活用した広告 ・観光素材集(パンフレット)改編・増刷 ・体験商品、見どころ動画の制作 ・着地用周遊ブック制作・配布 ・パブリシティ活動による県外テレビ・雑誌の取材補助 ・土佐くろしお鉄道、西南交通等と連携した誘客活動(観光ラッピング列車導入等) ・デジタルサイネージ(道の駅設置)の運用 ・宿泊施設ではた旅体験商品を予約・販売できる体制の構築(体験商品パンフレット作成) ・スポーツツーリズム予約管理システムの構築(予約管理システム制作、予約端末購入) ・インバウンド対策(多言語ガイドマップ作成) ・加速化交付金業務増に伴う非常勤職員雇用(非常勤職員1名)		
						○予土県境地域連携実行委員会負担金 1,100千円 ・サイクリングを核とした観光振興連携事業ほか ○四万十川流域市町村観光振興連絡会負担金 552千円 ・流域物産展開催ほか ○四国西南地域観光連絡協議会負担金 40千円 ・パンフレット作成ほか

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
観光分野						
2 観光商品の外商の推進						
1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化						
(1) 観光商品のセールス強化						
★営業力のある人材、組織の育成	○旅行業の取得 H27.3月～ 幡多広域観光協議会: 旅行業取扱主任1名雇用 9月 第3種旅行業資格試験受験 ・四万十市観光協会: 2名 ・幡多広域観光協議会: 5名	四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、「待ちの誘客」から「動く誘客」にシフトしていき		○旅行業の取得 ・四万十市観光協会、幡多広域観光協議会職員の第3種旅行業資格の取得	-
◎旅行会社への営業活動の促進 ○旅行商品商談会等への出展	○観光客誘致宣伝活動 ・県外旅行者、学校等への誘致活動 5月 関東方面 7月 広島、福岡 11月 関西方面				【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 【280千円】 ・全国の体験型観光事業者とのネットワーク構築 ・外部研修会参加による職員のスキルアップ	
★海外への営業活動の促進	○海外への営業活動 ・7/30～8/2 台湾(台北、高雄、茂林区)訪問PR				○観光客誘致促進事業補助金 100千円 (事業主体: 四万十市観光協会) ・ジャパン・フィルムコミッション入会 ドラマ、映画、旅行番組等の誘致促進	
(2) 広報・プロモーションの強化						
○多様な媒体を活用した広報活動の強化	○観光大使設置 ・国内外への幅広い情報発信力を活かした広報活動を展開 委嘱状況: H27年度末・・・13名委嘱予定 ○観光情報誌等への掲載 6月 「タウン情報松山」へPR広告掲載 ほか	四万十市 (観光課・企画広報課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、観光誘客につながっている ◆観光協会ホームページアクセス数 H26: 119,577件 → H31: 150,000件	【計画の変更】 ○取組内容を「シティプロモーション推進事業」に変更 【計画の変更】 ○「広域連携による誘客(PR)活動」をアクションプランに追加し、 ・連携組織体制の構築と広域連携による観光情報発信・PR活動の推進 を取組内容に記載	○観光大使設置事業 376千円 ・国内外への幅広い情報発信力を活かした広報活動を展開 H28年度委嘱予定者・・・3人程度	
★一元的な情報発信の促進 ★ターゲットに合わせたプロモーションの展開	○シティプロモーション推進事業 地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプⅡ)を活用 ・本市の本質的な魅力、独自性を見極め、国内外から本市に目を向けられるコミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)をつくり、多様なツール・媒体(WEB、SNS等)を活用したプロモーションを展開 7月～ 地域デザインの専門家招致 ワーキンググループを毎月開催 3月 基本プラン策定 ○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・観光プロモーションビデオ(インバウンド対応)の作成 7月～ PV作成着手 3月 PV完成				【再掲: 商工業分野と共通】 ○シティプロモーション推進事業 ・コミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)の作成、プロモーション展開 【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (事業主体: 幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・教育旅行誘致活動プロモーションツール見直し (パンフレット制作) ・体験事業者と連携した「はた旅体験商品」の認知度向上、キャンペーン展開 (体験予約サイトの広報、統一した表示物製作) ・インターネットや雑誌、新聞等を活用した広告 ・観光素材集(パンフレット)改編・増刷 ・体験商品、見どころ動画の制作 ・着地用周遊ブック制作・配布 ・パブリシティ活動による県外テレビ・雑誌の取材補助	【10,039千円】 【4,893千円】
◎産業間連携による誘客(PR)活動	○誘客(PR)活動の展開 5月 関東幡多四万十会・四万十ふるさと応援団交流会 8月 京都看護大学オープンキャンパス(沖縄県) 枚方まつり(「提灯台」参加) 11月 モンベルクラブ・フレンドフェア(大阪) 友好・交流都市物産展(枚方市) 四万十まるごと幡多まつり(岡山県津山市)				○枚方市・四万十市友好都市推進協議会補助金 400千円 ・枚方物産展参加による観光PR ○四万十市ふるさと応援団事業 822千円 ・関東幡多四万十会・四万十ふるさと応援団交流会参加による観光PRほか	

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要	
						観光分野
						3 おもてなしの向上
						1. おもてなし環境の整備
(1)四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化						
◎拠点施設の拡充、機能強化	<p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・四万十川学遊館展示パネルリニューアル 17枚取替え(AR対応) ・トンボ自然公園内樹木等名札設置(インバウンド対応) ・Wi-Fi環境整備 「四万十いやしの里」、「四万十川学遊館」、「かわらっこ」 「四万十楽舎」、「ホテル星羅四万十」</p> <p>○温泉施設の充実 (実施主体:(一社)四万十市観光協会) 四万十市産振総合補助金を活用 ・安並温泉水の利用(配湯)施設の充実 温泉給湯設備の新設(新ロイヤルホテル四万十)</p> <p>○宮地公衆トイレ整備 ・観光客用公衆トイレの設置(工期:10月~H28.3月)</p>	四万十市(観光課) 観光協会	◆公共観光施設等 利用者数 H26:172,370人 → H31:180,000人		<p>○四万十いやしの里管理運営 ・施設等修繕ほか 5,674千円</p> <p>○四万十川学遊館管理運営 ・大型オリジナル樹木プレート(インバウンド対応)設置 ・シアタールームリニューアル ・公園内散策道整備ほか修繕 ・管理運営 19,392千円</p> <p>○かわらっこ管理運営 ・施設等修繕ほか 556千円</p> <p>○四万十楽舎管理運営 ・グラウンド照明修繕 ・管理運営 3,311千円</p> <p>○ホテル星羅四万十管理運営 ・施設等修繕 ・天体観測所施設運営 8,279千円</p> <p>○カヌー館関連施設等管理運営 ・カヌー館、四万十ひろば(農村公園)、山村ヘルセン ター、ふるさと案内所等 16,658千円</p> <p>○キャンプ場ほか観光公衆トイレ管理運営 (観光シーズン仮設トイレ設置を含む) 6,392千円</p> <p>○四万十パーク管理 ・日時計公園柵等設置工事 ・植栽管理ほか 4,509千円</p> <p>○岩間四万十茶屋維持管理補助金 113千円</p> <p>○入田ヤナギ林整備 3,886千円</p> <p>○四万十川観光遊覧船案内放送の多言語化 (実施主体:四万十川観光遊覧船協議会) ・外国人観光客への案内機能の向上 -</p>	
(2)二次交通の充実						
○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信	<p>○四万十川周遊バス(川バス)運行 4月~8月 中村駅~江川崎駅間(43日間運行) 宿泊とのセットプランの造成・販売 利用者数実績:545人</p> <p>○しまんと・あしずり号の運行 4月~9月 四万十市~土佐清水市間(67日間運行) 利用者数実績:350人</p> <p>○おもてなしタクシーの運行(通年)</p> <p>○レンタサイクル(通年)</p>	四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆二次交通利用者数 H26:5,718人 → H31:10,000人		<p>○四万十川周遊川バス運行 5,686千円 ・中村駅~江川崎駅間 4月~11月、1月~3月(172日間運行予定)へ運行期間拡</p> <p>○周遊観光バスしまんと・あしずり号運行 11,014千円 ・4月~9月及び3月(70日間運行予定) 中村駅~足摺コースに加え、中村駅~江川崎駅間 を新設</p> <p>○おもてなしタクシーの運行(通年) -</p> <p>○レンタサイクル(通年) -</p> <p>【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (事業主体:幡多広域観光協議会) 【500千円】 地方創生加速化交付金を活用 ・土佐くろしお鉄道、西南交通等と連携した誘客活動 (観光ラッピング列車導入等)</p>	

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						観光分野					
						(3)周遊しやすい環境の整備					
						★観光案内機能の充実					
	<p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内イラストマップ(インバウンド対応)作成(10,000部) 多言語(インバウンド対応)観光案内板設置 設置場所:佐田沈下橋駐車場(四万十川観光案内) 為松公園登山口(公園の桜、中村城の案内) 市街地(街歩き案内) Wi-Fi環境整備 「四万十いやしの里」、「四万十川学遊館」、「かわらっこ」 「四万十楽舎」、「ホテル星羅四万十」、「カヌー館」 観光施設での英会話教室開催 宿泊施設、観光施設(カヌー館、四万十楽舎、かわらっこ、 四万十川学遊館)を対象に英会話教室の開催(3回) 	四万十市 (観光課・企画広報課) 観光協会 幡多広域観光協議会	<p>◆周遊しやすい環境づくりが進み観光誘客につながっている</p> <p>◆外国人観光客入込客数 H26:1,341人 → H31:5,000人</p>	<p>【計画の変更】 ○取組内容を「シティプロモーション推進事業」に変更</p>	<p>○街歩き観光案内看板設置 ・市内街歩き看板をグランドデザイン、多言語看板に一新 3,513千円</p> <p>○観光ガイドブック作成(多言語対応) 3,097千円</p> <p>【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (事業主体:幡多広域観光協議会) 地方創生加速化交付金を活用 ・デジタルサイネージ(道の駅設置)の運用 ・宿泊施設ではた旅体験商品を予約・販売できる体制の構築(体験商品パンフレット作成) ・スポーツツーリズム予約管理システムの構築(予約管理システム制作、予約端末購入) ・インバウンド対策(多言語ガイドマップ作成)</p>						
	<p>○地域おこし企業人交流プログラム 4月～ANA総合研究所から1名招致(H25～継続)</p> <p>○旅行業の取得 H27.3月～ 幡多広域観光協議会:旅行業取扱主任1名雇用 9月 第3種旅行業資格試験受験 ・四万十市観光協会:2名 ・幡多広域観光協議会:5名</p>			<p>【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・広域観光拠点機能 デジタルサイネージ導入</p>	【3,864千円】						
	<p>【再掲】 ★一元的な情報発信の促進</p> <p>○シティプロモーション推進事業 地方創生先行型交付金(上乗せ交付分タイプII)を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の本質的な魅力、独自性を見極め、国内外から本市に目を向けられるコミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)をつくり、多様なツール・媒体(WEB、SNS等)を活用したプロモーションを展開 <p>7月～ 地域デザインの専門家招致 ワーキンググループを毎月開催</p> <p>3月 基本プラン策定</p>			<p>○地域おこし企業人交流プログラム ・ANA総合研究所から1名招致(H25～継続) 体験メニュー等のコーディネート 情報発信 おもてなし向上「接客研修」開催 ほか</p> <p>【再掲:商工業分野と共通】 ○シティプロモーション推進事業 ・コミュニケーションデザイン(コンセプト、メッセージ、キャッチコピー、ロゴデザイン等)の作成、プロモーション展開</p>	8,000千円 【10,039千円】						
2. おもてなしサービスの充実											
(1)観光地としての市民意識の醸成と浸透											
	<p>○おもてなし向上「接客研修」の開催 (講師:地域おこし企業人) ・学校関係者:11回開催 ・医療関係者:5回開催 ・市役所内:3回開催</p> <p>○「(仮称)四万十市検定」の実施 3月「しまんとのチカラフェスタ2016(四万十市産業祭)」での実施を検討</p>	四万十市(観光課) 観光協会	<p>◆観光地であることを広く市民が認識し、おもてなし意識と地域の魅力を伝えられる市民が増えている</p>	<p>【再掲】 ○地域おこし企業人交流プログラム ・ANA総合研究所から1名招致(H25～継続) 体験メニュー等のコーディネート 情報発信 おもてなし向上「接客研修」開催 ほか</p> <p>【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・広域観光拠点機能 おもてなし意識の醸成とインバウンド対応のスキルアップ研修</p>	【8,000千円】 【644千円】						

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要						
						観光分野					
						(2)リピーター確保に向けた取り組み (特典の充実)					
						◎おもてなし感が感じられる仕組みづくり	<p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊とのセットプランの造成・販売 (実施主体:四万十黒潮旅館組合) 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 4月～ 「中村の塩タタキ」との宿泊セットプラン (参加宿泊施設 12施設、参加飲食店 33施設) ・四万十周遊バス(二次交通)との宿泊セットプラン ・「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」との宿泊セットプラン ・「ペットホテル」との宿泊セットプラン <p>○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)の造成・販売 6月～ 着物レンタル(呉服店と連携)による小京都中村の「街歩き」体験メニュー 	<p>四万十市(観光課) 観光協会 四万十市観光振興 連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型 観光受入研究会</p>	<p>◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている</p>	<p>【再掲】 ○インバウンド対策事業補助金 (事業主体:四万十市観光協会) 【900千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「着物で街歩きプラン(KIMONOLOILOI)」の磨き上げ <p>【再掲】 ○食の魅力を活かした地域振興事業 【400千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生加速化交付金を活用 ・「(仮称)四万十の食研究会」を設立し、地域の食材、食文化の掘起しと磨き上げ、「四万十の食」の開発(アドバイザー招致等) 	
4 組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成											
1. 観光関連事業者のスキルアップ											
(1)観光関連組織の役割分担と組織力の強化											
○役割分担の明確化とスキル・組織力の強化 ★コーディネーターの育成	<p>○旅行業の取得</p> <p>H27.3月～ 幡多広域観光協議会:旅行業取扱主任1名雇用 9月 第3種旅行業資格試験受験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光協会:2名 ・幡多広域観光協議会:5名 	<p>四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会</p>	<p>◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、「待ちの誘客」から「動く誘客」にシフトしている</p>		<p>【再掲】 ○旅行業の取得 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光協会、幡多広域観光協議会職員の第3種旅行業資格の取得 <p>【再掲】 ○観光案内所運営補助金(実施主体:四万十市観光協会) 【7,400千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所運営ほか <p>【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 【280千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の体験型観光事業者とのネットワーク構築 ・外部研修会参加による職員のスキルアップ <p>【再掲】 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (事業主体:幡多広域観光協議会) 【1,171千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生加速化交付金を活用 ・加速化交付金業務増に伴う非常勤職員雇用(非常勤職員1名) 						
(2)異業種との交流・連携の促進											
【再掲】 ★異業種交流会の開催		<p>四万十市(観光課) 観光協会</p>	<p>◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている</p>								

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	平成27年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	目標(H27) 到達点(H31)	計画の追加・修正	平成28年度予算(取り組み)概要
観光分野	2. 観光人材の育成確保	(1)地域の観光リーダーの育成	★地域のキーマンの発掘、育成	<ul style="list-style-type: none"> ○四万十市体験型観光受入研究会 11月 田舎暮らし体験(民泊)受入家庭募集(11月広報掲載) ○体験メニューの磨き上げ・開発、受入組織の育成 11月 アドバイザー(県観光アドバイザー)招致 ・「第12回全国ほんもの体験フォーラムin高知」開催に向けた体験型観光受入組織の育成、体験メニューのブラッシュアップ等 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十市(観光課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域で核となる観光人材が育成されている ◆体験型観光受入研究会加入団体数 H26:23団体 → H31:30団体 		<ul style="list-style-type: none"> 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域おこし協力隊事業 ・6名配置 【23,409千円】 【再掲】 ○四万十市体験型観光受入研究会 ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか - 【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 【91千円】 ・体験事業者、田舎暮らし体験受入家庭を対象とした研修会の開催 	
		(2)体験インストラクター、ガイドの育成	○インストラクター、ガイドの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○おもてなし向上「接客研修」の開催(講師:地域おこし企業人) ・学校関係者:11回開催 ・医療関係者:5回開催 ・市役所内:3回開催 ○サイクリングガイド養成講座 ・四万十川の景観・歴史・文化等を活かしたコース設計、イベント開催、解説・安全管理等の実践講習によるガイド育成 9月~4講座(2日間/回)開催...受講者数:9人 ○体験メニューの磨き上げ・開発、受入組織の育成 11月 アドバイザー(県観光アドバイザー)招致 ・「第12回全国ほんもの体験フォーラムin高知」開催に向けた体験型観光受入組織の育成、体験メニューのブラッシュアップ等 ○インバウンド(外国人観光客)受入体制向上事業 地方創生先行型交付金(基礎交付分)を活用 ・観光施設での英会話教室開催 宿泊施設、観光施設(カヌー館、四万十楽舎、かわらっこ、四万十川学遊館)を対象に英会話教室の開催(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会 	◆観光人材の育成、レベルアップが図られている		<ul style="list-style-type: none"> 【再掲】 ○地域おこし企業人交流プログラム 【8,000千円】 ・ANA総合研究所から1名招致(H25~継続) 体験メニュー等のコーディネート 情報発信 おもてなし向上「接客研修」開催 ほか 【再掲】 ○四万十市体験型観光受入研究会 - ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか 【再掲】 ○幡多広域観光協議会負担金 【91千円】 ・体験事業者、田舎暮らし体験受入家庭を対象とした研修会の開催 【再掲:商工業分野と共通】 ○地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 【644千円】 (道の駅「よって西土佐」関連) 地方創生加速化交付金を活用 ・広域観光拠点機能 おもてなし意識の醸成とインバウンド対応のスキルアップ研修 	
		(3)将来の担い手の発掘・育成	★ボランティアの受け入れ ★インターンシップの受け入れ		<ul style="list-style-type: none"> 四万十市(観光課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会 	◆観光の担い手確保につながっている		○観光拠点施設等と連携した受け入れ推進 -	

28年度当初予算額【観光分野】
141,141千円